

『幸せはいつも小さくて東京はそれよりも大きい』

東京はそれよりも大きい』

作・広田淳一

登場人物／上演時キャスト

三谷クミコ……監禁されていたらしい女／笠井里美

小田ユキヒト……内気な会社員の男／松下仁

星野カズユキ……お笑い芸人のタマゴでフリーターの男／広田淳一

仁村ヒトミ……三人暮らしをしているユニットバスを憎悪する女／小角まや

石橋ミカ……ヒトミの友人で星野の憧れのバイト店員／榊菜津美

木村ジュンタ……ハンド部の先輩でガテン系の男／稲垣干城

木村シズカ……ジュンタの妻で浮気を疑っている女／田中美甫

見城タイスケ……電話をかけてくるピョロピョロした男／糸山和則

高橋サトル／母……ハンド部の名キーパーでやる気あふれる男／渡邊圭介

前提

1 監禁の連鎖

エントリー

監禁じじい

開場。

観客が劇場に入ってきて来て、それぞれが自分の席を探しあて、座る。

俳優たちが制作スタッフとして客入れの案内をしている。

俳優たちが出てくる「場所」が、どこであるのかには注意が必要だ。

以下の問答が行われる場所は一つの空間でありながらも、それぞれの個別の空間でもあるような、二重に仕切られた空間でなければならぬ。それは都市の比喩であり、人間の外部と内部の比喩でもあるだろう。一つのを共有しながらも、決してそれを共有できない、そういう空間である。

これから始まる芝居に「深刻さ」を感じさせるのは単純に間違いではないだろうかと思う。もはや大した話などない。

すべては誰にでも起こりうることだ、という軽いトーンを大切にしよう。

一人の男（見城）が、周囲を見渡しながら歩き始める。

★照明：客入れ明かりから断続的に変化していったオープニングになる。

見城 「監禁」という言葉を知っていますか？

少しの間。

まや はい。

なっち 知っていますよ。

美甫 ええ、まあ。

里美 なんか閉じ込めちゃうってどういうことじゃないの？

松下 外に出さない、とか？

早香 縛ったり、さるべつわとか、

なっち お金に換えるってことでしょ、換金。そっちじゃない？

干城 誰にも連絡が来ない、とか。

美甫 レイプされちゃったり、

小田 自由に対する罪、ていつになるんじゃないですかね。刑法第220条によって処罰の対象になります。

見城 「監禁」と聞いて思い浮かべる事件は何ですか？

少しの間。

美甫 新潟のほら9年ぐらい監禁されてたっていう、

早香 北九州の一家のやつ、あれ、すごい人死んでてヤバいと思った。

松下 女子高生コンクリ詰め事件。とか。綾瀬の。

干城 海外で、なんか自分の娘を監禁して、レイプして、それで孫を何人も孕ませちゃったっていう鬼畜がいませんでしたっけ？

見城 「監禁」する人の気持ちが変わりますか？

少しの間。

まや わっかんないね。

早香 わかるわけないし、わかりたくもないし、

干城 そりゃダメなんですよけどもねえ。んー、でも誰かを完璧に一人占めしたいっていう

気持ち、わかんなくもなごすけど……

里美 ヘットで十分かな。

美甫 絶対許せません。

見城 もっとも、あなたが「監禁」をわかってるんだったら、あなたを「監禁」してごめい、どんなや
んじやなかっ？

少しの間。

笠井 いや、されてないされてない。

干城 え、どっいう意味ですか？

松下 支配されてる、とかってこと？

「自分を支配している何か」を探すように、周囲を見渡す出演者たち。

まや 学校。しかないでしょ。

美甫 国とか？

松下 会社。

なっち 先生かな。

早香・まや 日本。

里美 部活の顧問。

早香 ピアノの先生。

干城 人間という、借り物の体ですかね。

まや 劇団。

小田 親。

里美 世間。東京来る前は近所づきあいっていうか、なんか無意識のうちに束縛されているというか。田舎だったんで。

干城 自分。自分を監禁しているのは、自分。

見城 あなたがもし「監禁」されているとしたら、その最中にあなたは何が欲しいと思いますか？

まや なんだろう、おいしい食事？ かな。

早香 睡眠。てか夢ぐらいしかもう、逃げ場がない。って、あーでも悪夢、見そう。

松下 ま、状況によるよね。

干城 テレビ。

美甫 地下室とかはムリ。

なっち 窓とかね。風が入ってきたりして。

早香 情報かな。それが一方的であったとしても。カケラみたいなものだったとしても。

干城 太陽。

里美 月が見えたらなあ。

まや 外で遊んでいる子供の声、とか。

俳優達が何かの音を聞こうとして、耳を澄ませている。

なっち 窓。

美甫 窓かな。

松下 風が入ってきたりして。

里美 月が見えたらなあ。

なっち 窓を開けたい。と思う。窓を開けたい。

俳優、一斉に移動する。

声 風。

一斉になだれ込んでくる外の空気。

窓の向こうへ、

駅前のパチンコ台の「ポポポポポ」。

星野　　って言うって俺の中学時代のハンドボール部の後輩です。大学出てからは司法浪人というか、なんか司法試験を目指して頑張ってたみたいなんですけど、結構長いことダメで。そんてまあ、諦めてっていうんじゃないですけど、いまは別の、情報関係の事務の仕事なんかをやっています。小田　今から考えてみると、以前の僕の生活には「目標」といっものがなかったんだと思います。長いことあるようなフリをして暮らして来たんですが、本当は何もなかった。だけど今は違います。僕には、守るべき人が出来たんです。

星野　　これを書く頃には、その当時小田のやっていた。

星野仁村　「監禁生活」

星野　　っていうのは結構クレイジーな段階に突入してましたんで、こいつがこんな風にして、

星野仁村　「愛の記録」

星野　　を残しておこうと思立ったのは、なんとというか、急速に矢われつつある自分の

星野仁村　「平衡感覚」

星野　　みたいなもんを、こいつなりに立て直そうとしていたのかも知れません。

小田　　これから始めるのは僕と三谷クミコさんのお話です。僕らが出会って、そっからお互いをかけがない存在と認めあうようになるまでの、

星野　　そうして2人がお別れをして、

仁村　　うちら3人の共同生活がお終いになるまでの、

小田　　お話です。

小田・仁村・星野　　そうして3人は別々の玄関を探して靴を履く。

三人、退場。

安全地帯

失禁

星野に連れられるようにして一人の女(三谷クミコ)が登場。

三谷はよちよちと力の無い歩き方をしている。

星野　　じゃあ、その、とりあえず何だその、スリッパ？　スリッパだよ。それだけ脱いでこっち上がってもらっして、うん、うん、そうそう。広いでしょう？　俺一人で住んでるわけじゃないんだよ。

星野、三谷のための衣服を手に取って。

星野　　着替え着替えは、とりあえず男物なんだけどボクサーパンツでなんとかしてもらっして、

三谷、差し出された「ボクサーパンツ」を怪訝そうに見つめる。

星野 ほら、トランスだとなんか嫌でしょ？ スーサーして。あ、でも、むしろボクサーパンツの方がイヤか。下着としての密着度で言ったら全然ボクサーパンツの方が上だもんね、そういう意味では……あ、履かない？

三谷 あの……その前に、

星野 うん。

三谷 脱がないと……。

星野 あー！ そうか、俺が居たんじゃね。ごめんごめん、じゃ、そっちの方で着替えてくれれば、俺、全然こっちで眠ったフリをしているからさ、着替え終わったらひと声かけてもらっていい？ あ、あ、あ、このジャージもほら、ね。

星野、三谷にジャージを渡す。

星野 ……うん。こっとう感じでいいかな、洋服は。こんな感じでいい？

三谷 ……。

星野 イヤって言われても他に何もなしね。別にイヤって言ってないしね。

無言で着替え始める三谷。

星野は枕に突っ伏しているような状態。

星野 ねえ、今何時？

三谷、時間の分かるものを探して部屋を見渡す。

星野 時計あの、洗濯機の上の棚のところにあってあるからさ、あの、

三谷 四時半です。

星野 四時半？ やっべ。あ、着替えた？ 大丈夫？

三谷 や、まだ、

星野 だよねだよね。えーとさ、あの、ちょっと言いづらいんだけど、俺、この場所にあんな長くないくないのね。もうすぐ帰ってくんだよこの家の住人が、

三谷 はア……。

星野 や、住人て俺もそうなんだけど、そう、多分、もうじき帰ってくんだよ別のが。えーと、あいつが大体いつも17:15に仕事終わって18:30までには帰ってきてきちゃうからその前にここを出なくて、それで俺、その後すぐに仕事行きたいんだよ。

三谷 はい……。

星野 夜勤が大体、いつもは22:00から始まんだけど、あ俺、居酒屋でバイトしてんだけどね、今晚ディナーの人が1人早上がりしたいつつつことだったんで俺がその代わりを頼まれてまして。それで、そのまんま通して夜勤やることになってんですよ。もう、着替えた？ 大丈夫？

三谷 はい。

星野、起き上がる。

星野 なんか、似合わないね。

三谷 ……。

星野 ま、いいか。まあ、いいよね。てかさっちの服どうしよっかね？ 濡れちゃってっから、

うーん、どうするのがいんだらう？

三谷 持って帰ります……。

星野 あ、そう？ じゃ、なんか袋がなんかに入れて。この鬼太郎袋みたいのに入れてさ、鬼太

郎袋ってわかる？ なんかバスとか酔った時にゲーゲー吐くための袋でさ。ゲーゲーだから鬼太

郎って、ハハ。

と、いいながら星野、袋に三谷の衣類を詰め込む。

三谷、制止しようとするそぶりを見せるが、星野はそんなことはお構いなしに事を進める。

三谷 ……。

星野 そんなじゃ、行きましようか？ 警察。

三谷 (頷く)

星野 それ前後ろ逆じゃない？

三谷、その辺に逃げよう。

星野 もっ……。

三谷、ジャージをもう一度脱いで、着替えようとする。

小田が部屋の奥から出てくる。

着替えている最中の三谷を発見する。

星野 あ、

小田 おう。

星野 居たんだ？ あれ仕事は？

小田 うん。こないだ一段落したから半休とって。

星野 あーそっ……。

小田、三谷と星野を見る。

星野 いや違うんだよー。違うの待って、いわはむ。

小田 いや、何も俺は……。

星野 うん？

小田 いいですよ別に。

星野 ん、何がいいの？ 違うよこの人は、そうじゃないんだよ。

小田 別にいいですよ。そういうのはお互い自由でいいと思ってますんじや。

星野 ホラもう見事に誤解が始まってるよ。違うんだよ、この人はそういう人じゃないんだよ。そうじゃないですよね？

三谷 え、あぁ……。

小田 いいですよって別に。誤解って、なにが誤解なんですか？

星野 あーいや、だから、ね、あの……。ふう。落ち着いて聞けよお前？ 「うわーっ」とか、でけえ声出すなよ？

小田 はい。

星野 この人はな、監禁されてたんだ。それで逃げてきたところを、俺が保護した。

少しの間。小田、ぐいぐい当たり前のようじや。

小田 へー、そうなんすか。

星野 もうちょっと驚けよお前。

小田 ……………。「え、マジすかー？ ありえねえっ！ ありえねえっ！」

星野 じゅんじゅんじゅん。いや。そういうの、いいーや。

小田 そんな何ですか？ ハイ、監禁されてました。(三谷)「え？ いんですかそのストーリーーじや？」

三谷 (頷く)

小田 エー(笑)？

星野 だから俺が車乗って「じや、セブン、セブン、セブン」に「ブン」に行っただよ。ホラ今、おにぎり100円で安いからセブン行って、おいしいし安いしですすげえお得感あるから行っただよセブン。あれしよっちゅうやっつてんのな？ あの100円のやっし。

小田 はア。

星野 そんなで「つくね」と「鮭」は「ら」と「銀シヤリ」買って、帰るついでして車に乗ったら窓ガラス、ガンガン！ つつって叩かれて。(三谷)「じゅんじゅん、そんな強くないよね。そんなに「あれ？」ってなっつて。「なんか俺、まずいことしたかな？」ってなっつて、あるじゃん、車に乗っている時つてそういう」俺の知らないところを俺のどっかの部分が「迷惑おかけしてました？」「みたいな、あんだろいつもより？」

小田 はぁ……。

星野 そんなでガンガンガン、てされたから、とりあえずウィーンつって窓開けてさ、そしたら、なんかドラドラドラミみたいなこと言われてや。

小田 落ち着くて下ささよ。

星野 なあ？ ドラマみたいなこと言われて。なんだっけあの、入れて入れて、つうのね。俺、びっくりしちゃってさ。だって、入れて入れて、とか言われないじゃん普通？ 俺、タクシーとかじゃねえしき、言われないでしょ？ っていうの？ だって俺……、

小田 タクシーとかじゃねえし……（合わせて言う）

星野 あれ「入れて入れて」じゃなかったでしたっけ？ もっと別の……「出して」？ 「出して」でしたっけ？

三谷 んん……。

星野 いや、でも、なんかもっと別の言葉だ。「出して」ではなかったような気がするな。「出して」だったら、もっと俺、衝撃を受けたと思うもん。だって「出して」ってエ（笑）、それはヤバイよオ（笑）、それ絶対もっとびっくりすると思うからア（笑）

小田 気持ち悪い気持ち悪い。

星野 とにかくこの人が逃げていると。連れて逃げて的な意味と解釈したよ俺は。させてもらった。

小田 はい。

星野 そんなでわけわからなかったけど、とりあえず後ろ乗ってもらって車出してさ、マジ、超えーんだよ。お前そついつ経験ないだろうからわかんないと思うけど言っけよ、あのね、追われている時に見るバックミラーはあれ格別だぞ？ すげー見ちゃうよ？ なんかもう何回見ているのってぐらい見ちゃうよ。

小田 すみません、嘘ですかこの話？

星野 嘘じゃねえって。嘘じゃないですよね？

三谷 とこるどこる……。

小田 なーんだ……（やつぱりな）

星野 いや大筋はあってるって、えー？ そういって言うの？ 全然、大筋どころか、えー？ そつこつと……

小田 警察行きや良かったじゃないすか、そしたら。

星野 それが、違う、行くつもりだったんだよ俺も。だってさ、全然、自分でどつどつしてよつとかなーし、超コエーんだよだつて？

小田 じゃなんで今、ここにいるんすか？

星野 だからア……警察行ったら警察の人が、んー違う、あのー……、なんだ、警察行く前の話なんだけど、なんかだから、事情があったんだよいろいろ。気分が、なんか気分が悪いことになつてちゃつてなこの人が、

小田 「気分が悪いなこと」？

星野 そうそう、だからなんて言うんだその、気分が悪いなことだよ。

三谷 おしっこを……。

小田 はい？

三谷 あたしがあの、おしっこを漏らしたんで、それで……。

小田 ……車の中で？

三谷 ……（頷）

小田 わー……。俺の車なんですけど。え、マジですか？ 最初に言っただせうよな。

星野 言えないでしょ？ お前、言える？ 俺はそういうセンチメンティブなことはゼンゼン自分の口からは言えないし、だって本人が言っていることと思ってるのでは限らないし、三谷 すみませぬ。

星野 いや別に、すみませぬ、とかっていついかなきゃないんですよ。あなたが言っているんだってたら、この場ではまあ、言ってもらった方が彼の理解も早かったですし、むしろ俺的には好都合でしたから。あ、違いますよ。別にあなたがおしっこを漏らしたことが自体はゼンゼン好都合じゃないですよ。そういう意味じゃなくって言うてるんですけど。

小田 でも星野さん、そういうのよく見えますよな。

星野 へん？ なになになに？

小田 いや、なんかそういう、お漏らしとかのビデオみたいなの。

星野 いや別に嫌いではないけど、確かにね。え、でも何だろう、それいまいいじゃー。

小田 ああ……。そんで着替えて、今、そのジャージなんすね？

星野 そつそつそつ。

小田 大体、わかりました。

星野 助かるわ。でなでなでな、俺、そつそつバイトに行きたい欲求がものすごい高まっているんだけど、っていうわけで俺、バイト行くから。居酒屋「こ」と「へ」に行くんすね。

小田 え？ 待って待って、そんな、どつすんすか俺？

星野 知らねーよ。

小田 いやいや、俺こそ知らないですよ。

星野 だって、俺だって別に何でもねえもん！ 今日セブンで会っただけなんだからお前。

小田 どつこつこつですか？

星野 だから警察連れてってやってくれよ。あー、トットト帰ってきたらあいつに頼んでもらってせうこつね、

小田 仁村さんだって困るでしょ？

星野 じゃあ別になんもしないでいーよ。いーよじゃあ。とにかく俺は夜勤行っているからな。

小田 どんだけ行きたいんすか。え、だってこの話、嘘じゃないんすよな？

星野 嘘じゃないつってんだろ、さっきからよ。

小田 じゃ休めよバイトは！ さっきはあんまびっくりしなかったけど、これ、かなりオオゴトですよ？

星野 おまえ、わかってねえなあ。俺はア……。いい？ 俺は今日、人にヘルプを頼まれている日なの。

小田 はい？

星野 セッチャんにヘルプを頼まれている日なの、わかるかな？

小田 あー、石橋さん？

星野 そうだよ。俺がセツちゃんに頼みごとされたのなんかゼンゼン初めてのじじいじゃん？
それで俺が今日遅刻なんかしてごらんよ？ その後、俺とセツちゃんがどうなるかわかんたろお前？

小田 別にどうもなんないと思えますか？

星野 それが一番困んだよ。どうかなるチャンスなんだから、どうもなんないのが一番困んだよ。頼むよ。とにかく俺は行くからな。そしてこれをきっかけにセツちゃんと一緒にダイバーシティにも行くからな。

小田 なんなんすか、知らないっすよ。

星野 知れよ。てか知ってんだろお前だって、俺のその思い。

小田 じゃもう、行ってください。わかりましたわかりました。行けよ、じゃあ。

星野 サンキュ（「サンキュ」のポーズ）

小田 うぜ。

星野、三谷に話しかける。

星野 じゃ、あとはいじつがやっしんをいじつしますか？……。

小田 え、何もしないでもいいっす……。

星野 はーん。じゃ、お前、ホントに何もしてあげんなあ？ 俺が帰って来てから、いろいろするからお前、だったらもうなんだ、指一本、触んなよ。

小田 触んないっすよ別に。

星野 バカ、そういう意味じゃねえよ（照れ）。

小田 自分で言ったんじゃないっすか。

星野、去る。

ロト手

小田と三谷、2人きりで残される。

小田、何の気なしに三谷の脱いだ衣服の入った「鬼太郎袋」を覗きこもうとする。

三谷、急いでその袋を自分で抱える。

小田 あ、すみません……。

小田、座る。

小田 ……僕はあの、

三谷、小田の方を見る。

小田 □下手、です。

三谷 はい……。

小田 あの、監禁とかっていつのはホントの話……なんですか？

三谷 はい。

小田 それはあの、どのへらの期間……？

三谷 ……。

小田 って別にそんなこと僕に話す必要全然ないですよ。なに聞いてんでしょ。ね。は。は。

三谷 ……わかりません。

小田 あ、そうですか……。え、それはわかんないから……。だから僕に話す必

要は無い、ハイ、すみません。それじゃあの、警察、行きますか、ね？

三谷 ……。

小田 あ、あー、すぐは行きませんか？ 行きますか？

三谷 っんん……（気が進まなそう）。

小田 ああ、なら、ちょっとめくっけしてからでも全然、僕は、

間。

小田 星野さんはあの……あ、あ、さっきのあの、星野さん、は中学の頃のハンド部の先輩で…

三谷 ……（頷く）

小田 別に中学の頃はそんな、特に親しかったとかっつうわけでもないんですけど、なんかみんなが集まるうみたいになった時にたまたま一人だけんなっちゃった時があって、「結局一人じゃーん」みたいな時があって、そこから仲良くなっちゃってそれで、気付いたら一緒に住んでましたー、みたいな。……すみません。

三谷 ……

小田 あ、あ、聞きました？ 星野さん芸人目指してるんですよ。

三谷 へー。

小田 ね？ ね？ なんかねえ、結構、いろいろと厳しい業界らしいんですけど、いろいろ頑張りつつあって。よくやんなー、とか思うんですけどね僕は。あの、お名前は…

三谷 ……三谷ワタロウです。

小田 三谷ワタロウさん。いや、一応なんか、名前くらい知っていた方が便利かな、と思って。僕、小田です。

三谷 ……。

小田 って聞いてないですよ。一応、知ってた方が便利かなあ、とか思って。あ、何か食べます？ 何がいいですかね？ 食べたい物とか……（冷蔵庫の方へ歩きながら）

三谷 レモンパイ。

と、三谷の携帯電話が鳴る。小田、歩みが止まる。
見城が舞台上の別の場所に登場。

小田 レモンパイ？ は、ちょっとピンポイントですね。て、あ、この電話三谷さんの……？
三谷 ……。

小田 (電話に) 出た方がいいですか？

三谷 小田さん。

小田 はい。

三谷 警察に行ったらあたし、どうなっちゃうんですか？

小田 どうっていうとちょっとわかりませんが、うーん、

三谷 出たくないんです。

小田 出たくない？ 電話に？

三谷 いや、そうじゃなくてあの、

小田 って、あ、ここから出たくないって……？

三谷 はい。

小田 えーでも、とりあえず行つたほうがいいんじゃないですかね？ とりあえず、

電話の音は徐々に大きくなっているように聞こえる。

小田 あの、

三谷 もう電話しないで。っって言ってもらえませんか？

小田 え？ あ？ おね、俺？ はい？

三谷、電話に出て、携帯電話を小田に渡す。

見城 もしもし？

小田 あ、もしもし、はい。

★照明：変化。電話のための通路明かりになる。

小田と三谷の活動範囲も狭くなる。

電話

見城 あんた誰？

小田 あ、いや、自分、小田と申しまして。

見城 名前はいいよ。クミコは？ 居るんだろ？

小田 あ、はい、クミコクミコさんは、あ、ちょっと待ってくださいね、

見城 早くって。

小田、三谷に電話を代わるように促す。が、三谷は電話に出たくない意志を示す。

小田 あ、出たくないそのなとですけど、

見城 ぶざけるなよ。出たくないわけ無いだろ？

小田 いや、あんまりぶざけつけて良さをそのな状況じゃないってこののは結構、自分なりに感じてるぞとですけど、

見城 居るには居るんだよな？

小田 ヘルニアきついんだよな？

見城 言ってるねーよ。居る……、お前、ぶざけてんな？ なんて急にヘルニアの話出してくるんだよ。

一言も言ってるねえだろ？

小田 すみません。ちよっとなんかそつ聞かせちゃって、

見城 代われよ、「クチャクチャ」言ってるだろ。と、いつか、お前がクミノ身を連れ去った男ってことだよな？

小田 いや、違います！ あ、担当したのはまた別の者になっております……

見城 担当して何だよ？ じゃ、お前もグルンってやったってことか？

小田 グル、グルグル、グルとかではないんですけど？

三谷、電話を切るように仕草で伝えている。

小田、切れる雰囲気じゃないというのを伝える。

見城 「ごっちはなア、クミノの身になんかあったらでめえ一人べらいい簡単に殺す覚悟は出来てるからな。

小田 いやーいやー、や、あの、あー、電波悪くないっすか？

見城 ものすげ〜クノリアに聞こえてるよ。

小田 やー、電波悪い気がするな。良く聞こえない、かもしれない。

見城 いいから代われよ。お前どこにいらんだ、今？

小田 えーと、沖繩かな？

見城 沖繩だ？ 都内で連れ去って数時間で沖繩って、てめえ何の組織だよ？

小田 あああ、切れる、かもしれないです、あ、あ、あ、あ、あ……。

小田、電話を切って一息つく。

★照明：場の雰囲気はぐっくりと変化しはじめ。

小田 これ、切って大丈夫だったんですかね？ なんか僕も沖繩とか適当なこと言っちゃいますけれど、

◆音響：再び電話鳴る。

小田　なんか、すぐお話したがってるみたいなんですけど……。
三谷　小田さん。
小田　はい。
三谷　警察には連れて行かないでもらえませんか？
小田　……？
三谷　私を、守ってほしいー！
小田　……はい。

◆音響：音が大きくなっていきって、やがて突然に消える。

採決

場面、シェアハウスのリビングとなる。

仁村、星野、石橋、登場。

仁村　えー？　なにになになに、全然意味わかんないんだけど？

小田　だから僕は、クミコさんを警察に任せるつもりはないっつってんだよ。

星野　クミコって言うんだ、へー。

仁村　え、それどついう意味で言ってるの、小田くんは？

小田　だから僕たちが、

仁村　うん。

小田　彼女と、

仁村　うん。

小田　一緒に過ごしていきい？　みたいな。そういっついでしょ。

星野　いやいやいやいや、

仁村　なんかおかしくない？

小田　なにがですか？

仁村　なにがですか、っつだっつて、ねえ？

星野　警察は？

小田　そんな、見ず知らずの人間にクミコさん任せられるわけじゃないじゃないですか？

星野　ん？　うん？

小田　なんすか？

仁村　小田クンだっつて昨日まで見ず知らずだったよね？

星野　だよね。

小田　そいつはすけべ……え、っつうか……？　僕……？　田の……？
やなこつですわね？

仁村　ま、ま、血のつながりは無いけど……。

小田 でも今じゃこうやって3人でルームをシェアするところまで来た。よく頑張ったじゃないですか。でしょ？

仁村 なに言ってるのこいつ？ 意味分かんないんだけど。

小田 いいから多数決で決めましょよ。意見別れた時は多数決ってことにしたじゃないですか。

星野 ちょっと待てお前……。やったのか？

少しの間。

星野 小田、お前まさか、

小田 は？ 何がですか？

星野 だからやったのかって聞いてんの。昨日、俺がせつせと夜勤している間、お前もせつせと夜勤してたのかって、そう聞いてんだよ。

小田 やってないっすよ！ なんすか。夜勤とかなんすか。

石橋 あーでも、そういえばなんか、今日の小田さん、雰囲気違うかも。

星野 あ、セツちゃんもそう思う？ なんか俺もね、違うんじゃないかなって、

小田 違わないですよ。違うって……え？ オーラがですか？

星野 言ってるえよ。

仁村 オーラの話なんかいつしたよ。

小田 いやだって。

星野 ぜってーやってるよお前、あれだろ？ 童貞卒業したらなんか、自分のオーラが変わった

んじゃねえか的なことを思ってしまったんだろ？

小田 そんな、バカじゃないんすから。

星野 でもオーラつったじゃない今。

小田 いつも言ってるじゃないすか。

星野 言ってるねーよ。初めて聞いたよ。

仁村 そんなんいつも言ってるの三輪さんへらいでしょ。

小田 江原さんですよ。

石橋 え、じゃあ、小田さんてまだ童貞なんですか？

小田 ……何がですか？

二人 ぜってーやったよ。

星野、仁村、騒ぐ。

小田 楽しそひですすね。

仁村 はあ？

小田 ハイ、そんじゃ決取りましよう。ね、もう多数決でいいじゃないですか、とひあえす。

仁村 いいけど別に。

星野 そんじゃしよっか？

三人、決を取るためになんとなく集まる。

小田 あ、ちなみに、僕はこの提案が通らないんだったら家賃滞納している人にはすべ出て行ってもらおうかと思っています。

仁村 汚ね！ あからまさに買収してんじゃん。

小田 というか何カ月も立て替えてんのがおかしいですよ。ね（星野さん）？

星野 ……そうだね。

小田 じゃ、三谷さんをこの家に置くことに賛成の人！

小田すべさま手を挙げ、星野それより少し遅れて手を挙げる。

仁村 ちょっと！ 簡単に買収されないでよ。

星野 え、じゃあトミ立って替えてくれんの？

仁村 は？ てめーで払えよ。

小田 賛成の人？

小田、星野、石橋すべさま手を挙げる。

仁村 （石橋に）って何でミカも挙げてんのちょっと？

石橋 ん？ ダメ？

小田 ハイ、可決ですね。石橋さんにも証人になってもらいましたんで、

仁村 ちょっとミカあ。

石橋 本人がいいならいいんじゃないの？

小田 ですよ？ だって僕、直接お願いされてるわけだし、

星野 で、いつまで置いとくんだよ？

小田 ちょっとの間ですよ。だから、三谷さんの気持ちが落ち着くまで？

仁村 なにそれ？

小田 あー、これ外では黙っててくださいよ。ちょっとの間なんですから、石橋さんも。

石橋 なんで？

小田 わあわあ騒がないであげてくださいって。

仁村 鍵とかどうすんの？ 合鍵渡すのなんかイヤだよ。

小田 いや、いいですよ。部屋からは出さないんで。

仁村 は？

星野 え？

小田 ん？

星野、仁村、お互いを確認するよつに視線を交差させる。

星野 部屋から出さないって、一歩も？

小田 はい。出たくないそうなんです。

星野 ん？ ん？ ん？

仁村 お？ ん？

小田 え？ え？ ん？ はい。

星野 お前、それ監禁じゃん？

小田 はあー？(笑)

仁村 いや、「はあ」じゃねえし、てか何笑ってんの？ 全然、監禁じゃん、

星野 せっかく俺が助けてやったのにお前、また監禁しちゃうわけ？

小田 だから監禁とかじゃないですって、

仁村 どう考えたってそういうことなんっちゃうでしょ、

小田 ま、それならそれでもいいんですけど、

星野 良くねえだろ。ねえ？

石橋 でも決取っちゃいましたしね。

星野 取っちゃった。決は取っちゃった。

仁村 そういう問題？

石橋 ええ？

小田 そんじゃまあ、そういうことじゃ。

星野 いや、おかしいでしょそれ？ 絶対おかしいよ！ ちょっと聞いてくださいよ先輩、小田
が頭おかしいこといってんですけれど、

星野が移動していくと場面転換。

仁村、小田、石橋、退場。

既成事実

映画館にて

場面、映画館となる。

一人の男（木村）とその恋人らしき一人の女（シズカ）が登場する。

舞台上、別の場所に三人とは無関係の映画館の客が登場している。

シズカ 星野クン、声、声、

星野 え、え？

シズカ 場所考えてちよつと。

星野 あ、すみません。

木村 そんなで結局、警察は行ってないんでしょ？

星野 はい。

木村 うーん、それ監禁とかじゃなくて単なる家出なんじゃないのって、俺は思うけどね。

星野 なんだかんだでもう二週間すよ、二週間。

木村 タカリつつたら、ちよつと言い過ぎかもしれないけど、そっち系の女って可能性もある

しね。

星野 や、俺もそういつてんすけどね。小田がなんかものすごい肩入れしちゃって、

木村 まずいんじゃないのそれは？

星野 そうなんすよねえ。

シズカ ねえ、こんな後ろだと観にくくない？

木村 あ、もうちよい前がいいの？

シズカ うん。字幕読めないかも。

3人移動する。

星野 その当時まず相談に行ったのが、この人。中学の時のハンド部で一緒だった、

シズカ 木村ジュンタ木村ジュンタ木村ジュンタ、

星野 ていう先輩です。その日はなんか奥さんと先約があったみたいなんで、僕は観たくもない

映画を観に行かされてたんですけど……。

木村 簡単にいやさ、星野はその、三谷さんてのを追い出したい、ってことなんだよな？

星野 ま、そーすね、早い話。

木村 教えてやりやいいじゃん小田チンに。おまえ騙されてんぞ、つって。

星野 や、結構、言ってるんすけどね、嘘をついてるんだとしても、それなりの事情があるはずだ、みたいなこと言っちゃってて、

木村 そんなこといってたら騙され放題じゃん。

星野 そうなんすよ。ま、実際嘘ついてんのかどっかは俺もわかんないです、てか、そもそもあの子連れて来たの俺ですしね、っていうこともあって、

木村 はいはい。

シズカ 星野さんて、

星野 はい？

シズカ ちょっと図々しいっていつか、空気読まない、人ですよね。

星野 あ、俺すか？

シズカ まあ悪気はないとは思ってますけどね、さっきからその小田さん？ て人の話ばかりして、あたし知らないですしね、その人のこと。

星野 すみません……。

シズカ いや、大事な話なんだろうとは思ってますけど……。

木村 いいじゃんシズカは、映画観てなよ。

シズカ まだ予告編でしょ？

木村 チェックしときなつて。次観たい映画とかいろいろあるでしょ。

シズカ なんなのその、いかにも面倒くさいです、みたいな言い方？

木村 別に面倒くさいとかじゃなくて普通にさ、しつとした方がいいじゃんチェック。

シズカ 言い方からしてすでに面倒くさそうなんですけど？

木村 そう？ じゃあごめん。(星野に)悪いねなんか、

星野 いえいえ、

シズカ とういづか、そろそろはつきりさせときたいんですけど、え？ 星野さんは、何ですか？

星野 はい？ 何かっていつと……。

シズカ これ帰れってこと？ あたし帰れってことなの「し」？ だったら全然帰ってもいいんですけど、

星野 や、帰れとかそんなことは全然思って無いんですけど。

木村 君ちよつとき、え、面倒くさいな。

シズカ やっぱ面倒くさいんじゃない？

木村 いやもう、今となってはね。これは面倒くさいよ、さすがに、

シズカ ていうか、ずるいよね、ジュンタもね。

木村 何が？

シズカ なーんか久しぶりに夫婦二人っきりで？ ようやく向き合って話す時間が持てる、みたいな感じだったわけじゃない。あたしとしては？ それをまあ、しつやうしてかへわかない友達連れてきて？ あたしの知らない人のことばかりスラスラス……、

木村 え、なに？ なんか話でもあったわけ？

シズカ 出来ないでしょ？ ちゃんとしたお話なんか、お友達がいて、

木村 すりゃいいじゃん？

シズカ　へー、じゃ、言うけどね、ジュンタもさ、もうなをて言うか、どっちかにしてよ、って感じなんだけどさ、

木村　え？　なにが？

シズカ　別にジュンタに誰か女がね、いるから嫌だとかそういう問題ではなくて、そういう問題もそりゃあるけど、なんかあたしに対しての気持ちというか、

木村　ちょっと待って、あのさ、

シズカ　別に愛情がどうとかっていうより未来を？　一緒に考える気持ちがないっていつかさ、

木村　なんなの？　誰のこと言ってるの？

シズカ　別に相手が誰とかそういうのは別にいいんだけど、

木村　いいならいいじゃん。は、何言ってるのお前？　変ないがかりやめてへねえっ？

シズカ　へー、よくまあ、そんなことが言えますねえ。

星野　すみませんすみません、ホントすみませんでした、ホント、

シズカ　ていうかもう、離婚しません？

星野　……どこで？

木村　意味わかんねえんだお前のいつてることは、

シズカ　そういう言い方がなんかしんどいの。ちょっとはあたしの立場になって考えてよ。

高橋　うるせーなあ。

少しの間。

高橋　静かにしろよ。黙って見てらんねえのかよ？

星野　はい、すみませんホント静かにしますんで。

木村　放っとけよ、お前こそよオ。

シズカ　ちよっ、ジュンタ？

高橋　あ？　なんだよ？

木村　まだCMなんだからちよっぺらいいいだろ。本編始まったら貝のようになんて黙ってやっから辛抱してるよ。

高橋　不愉快なんだ、てめえらの声がでかすぎてよ。

木村　そんなの俺だって不愉快だ馬鹿野郎。それでけえ帽子取れこのデブ助。

高橋　はあ？　関係ねえだろ。

木村　あるよ。そのでけえ帽子邪魔でスクリーンひとつも見えねえじゃねえかお前、つーかなんだよ、サトルじゃねえか？

高橋　サトルだけど、あ？　木村先輩、あれ、木村先輩じゃないっすか？　何やってんすか？

木村　いや、どう見ても映画観に来てんだろ。お前こそ何やってんだよ？

高橋　や、どう見ても映画観に来てんじやないすか。

シズカ　え、え？　お知り合い？

木村　うわ、奇遇じゃんサトルじゃん、奇遇じゃんサトルじゃん。

高橋　いやいやいや。

木村 あー、これ星野、
高橋 ああっ！ 「ししゃも先輩」じゃないっすか!?
星野 「ししゃも先輩」って。あつたな、そんなの。
高橋 うおオ、マジすか？ すげーな。
木村 (シズカに) これあの、高橋つつってハンド部の後輩でさ、
高橋 あ、どうもどうも奥さん、ご無沙汰してます。
シズカ ああ……どうもオ(会った覚えがない)。
高橋 一度、結婚式の時にご挨拶させていただいて、
木村 あのほら、大根、持って踊ってた連中の一人……
シズカ ああっ！ 葱をこっ、頭に……、(捲く仕草)
高橋 それですそれです。
シズカ なんてしたっけあれ、えーと、
高橋 一応、豊作を祝う舞つうことになってるんですけど、こっつね、大根持つてこっ……(ちよ
つと踊って見せる)
シズカ あーあー、それはホントありがとっございました。
高橋 いえいえ、
星野 こいつすげえ強かったんですよハンド。県選抜とかに選ばれてたりして。
シズカ へー。
木村 マジ、跳躍力ハンパ無かったからな。
高橋 いや、たまたまっすよ。
シズカ え、ポジションはどこだったんですか？
高橋 あ、キーパーです。
シズカ あー。キーパーの跳躍力も……、あー。
木村 言っとくけど運動神経いい奴がやんだよ、キーパーは。
シズカ あ、そうなんですか？
高橋 いや、そんなアしじゃないんですけど、てか、もう出ませんか？ そしたら。
木村 おう、じゃ飲みでも行くか？
高橋 はい。いっすね。
星野 あー、したらうちの店行きます？ (高橋に) 今俺、居酒屋でバイトしてるからさ。
高橋 おお、ちよっくら安くなるんすか？
星野 まー、多分。
高橋 じゃ、行きましよう行きましよう。
星野 おう。
木村 じゃ星野さ、せっかだから小田チンも呼んじゃえぼ？
星野 小田すか？ やー、でもあいつ来るかな……？
木村 俺が会ってちよっと言ってやっからさ。ずっとな家に居るからそっつう変なことになっちゃ
うわけだろ？ 外の空気にふれんのが一番いいんだよ。
星野 じゃあ、連絡してみます。

共同生活にこんな

仁村 この時期にもうちちょっとこいつが本気になって止めてやってねば、いろいろなことがもうちょっとうまくいったのかもかもしれません。こいつの名前は、

小田 星野カズキ星野カズキ星野カズキ。

仁村 っていうて、あたしと小田クンと3人で共同生活をしてました。

小田 3人は都内に小さな古い汚い安い一軒家の物件を見つけて、家賃を分割してその一軒家で暮らすことにしたんです。

仁村 女一人に男二人っていうわが家のメンバー構成をあたしの女友達に聞かせると大抵は、

星野(女) ムリ、絶対ムリ！

小田(女) すごくね良くてみるすじいね。

仁村 なあんて言葉を頂戴することが多かったんですけど、それでも、

星野 男兄弟の中で育ったこいつにとってそれはそんなに不自然なことでもなかったし、

小田 何よりこの人は「ユニットバス」っていうものの存在を「キブリと五分と五分ってべらいに憎んでました。

仁村 トイレとお風呂が一緒なんて「塩、コショウ、ゴキジェット」って置いてあるようなもんべこや？

小田 ダメなんですか？

仁村 あったり前じゃん！

星野 だからこいつにとっては、男女入り乱れて暮らすことの方が、バス・トイレ入り乱れて暮らすよりはるかに秩序ある暮らしだったってわけなんです。

仁村 そりゃアたまには、お風呂上がりのあたしと小田クンが出くわして。あ……

小田 じゅめじゅめじゅめじゅめじゅめん。あ、別になんかいいわけでもなごうぜい、や、うん、なごうぜい。

仁村 なあんてこともあるにはあったんですけど、小田クンもそんなことには段々と慣れて行ってくれたみたいだし、星野に至っては、最初の最初からそんな場面に出くわしても「あ……」「あ……」

星野 ちょっと待って、今、俺も脱ぐべから。

星野、スポンをおろしかけて仁村がそれを止める。

仁村 とかさそんな感じだったんで、わりと平穩に3人の共同生活は続いていったんです。

星野 とか言っているこいつなんですけど、こいつの名前は、

小田 仁村ピカ///仁村ピカ///仁村ピカ///。///。

星野 って言ってる俺のバイトの同僚でした。

仁村 小田クンは最初あたしのことを全然知らなかったんで、星野から、

星野 一緒に住もうぜ（小田に）

仁村 って言われた時には、てっきり二人暮らしだと思っちゃったみたいで、

小田 あ、いいすよ

仁村 なあんで反射的に答えてしまったらしいんですけど、

小田 イザふたを開けて見たら仁村さんを含めての3人暮らしだったんですね。

仁村 だから結構、引越し当初の小田くんは本気で戸惑っちゃってたみたいなんですけど、

星野 小田のその戸惑いは、ほんの少し一緒に暮らしただけで、まるでメイクを落とした後の「
」の眉毛みたいに、きれいさっぱり消え去ったんだそうです。

小田 というのも、

仁村 星野ってほんとバカだよねえ、そつえば星野ってさあ、星野じゃないんだから、

小田 なんていうかもう、ぞっこんでした。

仁村 （やだもう！ という感じで小田を小突く）

小田 だけど仁村さんにとっては残念なことだ、当時、星野さんには好きな女の人が別にいたん
です。

石橋が近くを通りすぎる。

星野、何かの運動をしている。仁村、それを手伝っている。

星野 ね、セッチャんのこと「ミカ」て呼んだら怒られるかなやっぱ？

仁村 んー、別に怒んないと思うけど。

星野 や、でも「ミカ」は急だろオ……。急にツめて来たなオイ、みたいな、うーん。

小田 星野さんはそういう種類の話題が大好きなぐせに、何かの催眠術でもかけられている
んじゃないかって思うくらい、自分に向けられた女の子の気持ちに対しては鈍感だったんで、

星野 あれ、お前また太った？

仁村 変わってねーよ。

仁村の思い届かす。

小田 それで3人の共同生活は、どっにかバランスを保っていったんだと思います。

仁村 三谷クミコ、とこの女がこの家にやってへる、その時まで。そとじゃ空っぽのバランスお
トげいたしまーす、

場面、居酒屋となる。

星野 おう、わりーね。

仁村 しゃべりーしゃべりー。

ハンド／ラムちゃんのなるもの

居酒屋の店内。

高橋、木村、シズカがいる。

少し離れて小田が座っている。小田は大分酔っ払っている様子。

高橋 木村先輩、携帯変えました？

木村 あー、変えた変えた、水没しちゃって、

高橋 なんか言ってくださいよ。俺、こないだ電話したんすけど繋がなくて、

木村 あー、なんか連絡くれたの？

高橋 はい。ちっと、ハンドでもやりましょうよ、と思っ

木村 へー、ハンド？ どうしたの急に？

高橋 いや、なんか久しぶりにやりたくないですか？

星野 サトル、職場に友達いねーの？

高橋 そういうんじゃないすけど。や、なんかやりたいって思ったら全然頭数足んないな、と思っ

星野 まあな。

木村 フットサルとかだったら集まんだろうけどなあ。

シズカ え、でも、どうして急にやりたいって思ったんですか？

高橋 ーん

シズカ なんかきっかけとか、

高橋 きっかけですか？ あ、こないだ金子と飲んだんすよ、で、そいつと飲んだ時にすげえ盛り

上がったって、

木村 おうおう、元気にしてんの、金子？

高橋 してますよー。

木村 全然会ってねえよ俺。

星野 俺もっすね。

高橋 そいつ大学でもハンドやってたんで、そいつと金子の友達とかも呼んで？ じゃあ久しぶ

シズカ りにゲームでもやろうぜって話になって、

高橋 予定どうなんすか？ どうせ暇すよな？

木村 バカ、超忙しいよおまえ。

高橋 え、休み何やってんすか？

木村 朝からお前、だからガン寝だよ。

高橋 暇じゃないすか。

シズカ　ほんとよく寝てる。

高橋　そんじゃ次の土曜にやりますから、マジで予定空けといてくださいよ。

木村　ええ、次の土曜って急だな？　お前らはどうなの？

星野　まあ、俺は空いてますけど、（小田に）お前、大丈夫？

小田　僕はダメです。

高橋　なんでだよ？

小田　僕はだって、あの、守るべき人が居ますんで、

シズカ　え？　守るべき人？

木村　あ？　何いってんのおまえ？

小田　ちっとじゃあ木村先輩。ありえない話とかしてもいいですか？

木村　なんだよ？

高橋　大丈夫かお前？　結構、酔っ払ってんな？

小田、ゆっくりと立ち上がって、

小田　大丈夫ですよ、たとえばなんですけど、たとえばあの、インデックスみたいな女の子が、いきなり家とかに来たら、そりゃ守るじゃないですか？　ていう話なんですけど、

木村　インデックス？

小田　知りません？　「とある魔術の禁書目録」。「禁書目録」と書いてインデックスと読む、みたいな？

木村　んん……。

高橋　わかる言葉で話してくんねえかな？

小田　や、だからア、ま、なんでもいいんですけど、たとえば女の子が空から降ってきたら、そりゃあ受け止めるじゃないですか？　て話ですよ、

木村　漫画の話な？

星野　ま、そんなもんです。

小田　なんつうか、やっぱりある日突然、美少女が押し掛けてくる、ってこれ黄金パターンじゃないですか？　まあ、ラムちゃんでも、シータでも、クリリスでもそうですし、まあ、ラムちゃんとかね、いいですよね、ラムちゃんはやっぱり、いいい。

高橋　ラムちゃんてあの……あれ（身振り）「ラムちゃん」を示す？

小田　はい。あ、もちろんホントにラムちゃんが来たとかってわけじゃないんですけど、全然そんな、豹柄ビキとかじゃないんですけど、そういう出会いがあったら、

シズカ　それが小田さんの守るべき人、なんですか？

小田　ま、そういうことですよ。

星野　虎柄ね。豹柄じゃなく、

木村　細け。

小田　一番イメージ的に近いのはむしろ『フュングマン』『なまめすけビバねえ。わかります？　ウイングマン？

木村 古いなまた。

小田 いや古いんですけど。あの「夢あおい」っていうポドリムス人の女の子が空から降ってきてですね、なんか電柱のところがバリバリとして次元の裂け目からグバーって出てきたのをキャッチするっていうシーンがあるんですけど……。

高橋 なんかしばらく会わねえうちにディーブな奴になってますね。(星野に)これ何すか、小田ちゃんにも彼女が出来たとかって話っすか？

星野 いや、そんな健康的なもんじゃなくて、って、いいのかよお前、この話、人に言っちゃダメっすよ。他言無用っす。

小田 ダメっすよ。他言無用っす。

星野 いいの？ 高橋とかいんの。

小田 だからダメっすよ。他言無用っす。

木村 ほんと酒、弱えなこいつ。

星野 もう寝かしちゃいますね。吐かれたらたまんないんで。

高橋 じゃ、持ちますよ、俺。

小田 あくあくあく

高橋、星野、小田を傍らに寝かせる。

シズカ それじゃ、あたしはそろそろ……。

とってシズカ、立ち上がる。

木村 え、帰るの？

シズカ うん。明日もちよっと職場に顔出さなきゃだから

木村 そうなんだ。なんか悪いね、今日は一日。

シズカ ううん、そんじゃお先に。

高橋 あー、なんかすみませんでした。

シズカ いえいえ、それじゃ失礼します。

シズカ、退場。

お会計

高橋 奥さん、すみませんでした。

木村 いいよ別に。なんかわかんないんだよね最近。

高橋 ああ……ええ、そついや小田ちゃんとは最近どうしてなすか？ 弁護士なんなのかいって無かったでしたっけ？

星野 いや、あれはせじ……。

高橋 あー。そうなんすか？

星野 なんか親が体調悪くしたりして？ そっちでバタバタしちゃったりとか、

高橋 あー

星野 あとまあ、全然受かんなかったし、

高橋 え？ あいつもししやも先輩と一緒にだったら来ますよね？

星野 ハンド？

高橋 はい。

星野 てか、なんで俺はもう行く話になってんだよ。

高橋 ーから来てくたさいって。木村先輩はもちろんですよね？

木村 やだよそんなの。金子なんか、あいつ大学でやってたんだろ？ もう、本気過ぎんだろ。

星野 しかも、金子の友達とかなに？ 悪い予感しかない。

木村 だよな？ わー

高橋 大丈夫ですって、

木村 もう、こんなん出てくんじゃないの？ こんなガッチガチの？

高橋 そんな試合するわけじゃないんすから。遊びっすよ。まあ、ガッチガチのは来るかもしん
ないっすけど、

木村 来るんじゃない。

星野 こえーよ。

高橋 でも、たまには運動しないとダメっすよ。

木村 毎日動いてるっつんだよ。

高橋 え、じゃあやりましようよ？

木村 ていうか、見たこともねえやる気だな。

高橋 や、木村先輩と一緒にしないでくださいよ。昔からやる気っすよ俺は。

木村 え、サトルは誰かと連絡とってんの？ ラクとかさ。

高橋 なんていきなりラクなんすか（笑）

星野 いたなー、ラク。どうしてんだろうなあいつ？

高橋 さあ？ 死んだんじゃないすか。

木村 勝手に殺すな。

石橋、仁村、登場。

石橋 あ、お客様そろそろあめの一、

星野 ああ、ごめんごめん。あ、もうウチらで最後？

石橋 ま、一応……。

仁村 そんなすべくじゃなくともいんだけどね、

星野 いやいやいや

高橋 あー、もうそんな時間ですか？

木村 そんなじゃあめ、しじけんつなまー。

仁村・石橋　ありがとうございます。

場面転換。

ルイ

仁村 エー、ウチらが勤めてた居酒屋「てんぐり」ってところにはですね、平日は深夜の2時でお店が終わりになっちゃうんですね。

石橋 だから仕事あがった後はみんなで始発までやっているようなお店に行ってるじゃない？
きり飲んで、

仁村 そんなで帰るのが面倒くさくなっちゃって、そのままわが家になだれ込む、って言うのが一つのパターンみたいになってたんです。

石橋 その日もちょうどそんな感じで、ヒトミと二人で小さな二次会を開いていたんです。

石橋 ニコニコしている。すでに酔っ払っているようだ。

石橋 ふいふい。ふいふい。

仁村 何笑ってるの？

石橋 ううん。

仁村 なに？

石橋 ねね、ちょっとゆってん？

仁村 何を？

石橋 ゆってん？

仁村 だ、うん、いそよ。

石橋 ヒトミ、ほをほ。

仁村 はい？ はいはいはいはい？

仁村、正座になる。

石橋 ヒトミさんは、最近、充実してるんですか？

仁村 うん。まあ、普通？ うん。

石橋 ふーん。あの、恋の方も充実して……、

仁村 うん、別に何もないかな。

石橋 またまたー。

仁村 はあ？ 何が？

石橋 またまたー。

仁村 え何、何もないもんだって。

石橋 え、じゃあ好きな人いないの？

仁村 いないいない。

石橋 またまたー。

仁村 だ、居ないでしよだってバイトか、家にいるか、へんいしかさ、何もしてないもん……。

石橋 ふーん、バイトもオ、家もオ、居るのはア……？

仁村 え、なに、どういうぬいぐるみだったの？

石橋 なんかキリンみたいに首が長い……カエル？

仁村 なにそれ？ キリンじゃないの？

石橋 でも緑だもん。

仁村 ああ……。

石橋 そんなで青いTシャツ着てんのボーダーの。

仁村 でかいの？

石橋 でかいんだよそれが。首がグデングデンしてて、座らせとくと首だけ下向いちゃってさ、何？ 無理矢理甲羅から引っ張り出した亀？ みたいになっちゃってて、

仁村 グロ……グッロオ……。

石橋 でしょ？ いやー、ちよっとねあたしセンス、無い、無いって言ったらダメか。なんか合わない人ね無理なんだよね。服とかもあんま好きじゃないし。

仁村 あー、あ、結構、ダメな感じだ？

石橋 ま、ま、人としては全然好きだよ、人としてっていうか同僚としてっ、

小田、登場。

小田 ただいま。

仁村 あ、おかえりー。

石橋 ああっ！ お邪魔してまーす。

仁村 あれ、星野は？

小田 いやあの……、

仁村 小田くんの面倒見てんのかと思ってた。

石橋 あれ一緒じゃなかったんですか？

小田 や、一緒にいるんですけど、

星野、登場。そして退場。

小田 いたんですけど、あの……、

仁村 えっ？

石橋 あわわわわ。

仁村 帰ってきてたの？ どこにいたの？

小田 いや普通に一階に……あの、起こしちゃ悪いかな、と思って静かに……。

仁村 あーそっ。

小田 そんじゃまあ……。

石橋 あ、おやすみー。

仁村 エーと、うちの家の間取りについてちょっとお話しときますよ、一応、一階建てになってまして、一階にバス・トイレ別の水回り関係と、ちょっと広めのリビングとキッチン、で階段登って二階に上がりますよ、

石橋 星野さんと小田さん、それとトトさんの部屋がそれぞれ別でありました。

仁村 それぞれの部屋の窓からは、多分、ゴミ処理場だと思っんですけど、近くにあり、白い大きなえんとつが見えていて、朝になってそこから白い煙がモクモク出始める頃、ちょっと騒がしくてみんなが力尽きちゃって、小さな二次会はいつもその辺でお開きになるとす。

三谷が一人、部屋で佇んでる。

★照明：朝の雰囲気のある、幻想的な明かり。

石橋 「三谷クミコ」が、トトさん家で暮らしていたその間、小田さんの部屋の窓はいつも閉じっぱなしでした。小田さんが会社に行った後もいつだって彼女は部屋に居て、まよなまに居続けるのが自分の仕事って感じで、閉じた窓ガラスの傍にじいっと座っていたんです。

◆音響：曲fadeup

窓辺の三谷の傍に仁村が近寄る。

石橋 一度だけ、トトは窓際に座っている「三谷クミコ」に声をかけたことがありました。

★照明：変化？

◆音響：曲fadeout

仁村 飽きない？ まひつとんじくす、

三谷 ……。

仁村 たまには窓、開けたら？

三谷 ……聞いてるんです。

仁村 聞いてる、って何を？

三谷 仁村さん。

仁村 ん？

三谷 犬のお腹に耳を当てたことありますか？

仁村 犬のお腹？ んー、ないかな。どうして？

三谷 音がするんです。

仁村 音？

三谷 はい。あたし犬を飼ってたんです。「ルイ」って言って、フランスの王様の名前だね、ルイのお腹にこっやって耳を当てると、心臓の音がするんです。ジャッカ、ジャッカ、ジャッカって、いっばいっばい血が流れていて、皮膚の回こっでは別の宇宙が広がっているんです。

仁村 ふーん、いい音なんだ？

三谷 はい。窓の回こっは、ルイのお腹の音がするんです。

石橋 基本的には、トトミミは三谷クミミのことが大っ嫌いだってよく言っていました。自分からは何も動かない、聞かれてもそれに答えない、そういうのが大っ嫌いだって。だけどその時だけは、三谷クミミに対しておへくわからない気持ちになったんだそうです。もしも彼女の言っていることが全部嘘だったとしても、彼女の過っしてきた長い長い時間に対して自分は何もしてあげることが出来ない。それがなんだか途方もなくおへくわからなくなっちゃったんだって、そういうことになりました。

3 朝に家を出て

遠足

導入

星野 高橋サトルの言った一週間後の土曜日っていうのがやって来まして、

仁村 星野たちはそれこそ久しぶりにハンドボールをやるっていうことになったんだそうです。

星野 小田はあんまり気が進まなかったみたいなんですけど、なんやかんや説得してなんとか車に乗せまして、

小田 もう、わかりましたよ。

星野木村 サンキュー

仁村 だけど小田クンは、星野と木村さんをグラウンドに送り届けるつもりで、

小田 それじゃ僕はこれで、

木村 ちよ、待って小田ア！

仁村 帰っちゃったんです。一方、小田クンが一人を送るために家を空けていたそのわずかな時間、三谷クミンはわが家に来てから初めての、おでかけをしました。

玄関のあたり「三谷。

三谷 あたしちよっと、

仁村 ん？ うん。

三谷 出かけてきます。

仁村・石橋 いっしょにしゃーい。

小田 出かけた？ しゃーい？

石橋・仁村 知らない。

小田 はあ？

◆音響：曲out

三谷 朝

なっち 駅

まや 竊木町

美甫 地下鉄

早香 スターバックスのコーヒーを手に、小走りする女の人。

まや ヒールの足音。甲高い音。

なっち コツコツコツコツ。

美甫 マイ・タンブラー。

三谷 朝

なっち 駅

まや 竊木町

早香 スーツ姿のサラリーマン

美甫 アルマーニ

なっち ベルサーチ

美甫 バルー

まや 洋服の青山・青山・青山

早香 青木

なっち コナカ

まや 青山・青山

早香 青木

なっち コナカ

美甫 丸井・伊勢丹・アルマーニ

なっち ベルサーチ

美甫 バルー

三谷 朝

なっち 駅

まや 竊木町

美甫 地下鉄

早香 階段

なっち タッタッタッタ

全員 タッタッタッタ

早香 足早に歩く、サラリーマン。

なっち エレベーター

まや 登り階段

美甫 車イス

まや 登り階段
なっち 点字ブロック
まや 登り階段
早香 ホーム
三谷 駅！

音響（プアーーン！）

早香 危ないですから下がってください。
なっち 電車・停車・降車・乗車
まや 電車・停車・降車・乗車

美甫 満員。

早香 すし詰め。

美甫 ぎゅぎゅぎゅ、ぎゅぎゅぎゅ。満員。

早香 すし詰め。

美甫 ぎゅぎゅぎゅ、ぎゅぎゅぎゅ。

なっち コロン

まや 汗

なっち 制服

まや ワイシャツ

なっち ジェル

まや 香水

なっち ハンドバック

美甫 コーチ・ビトン・クロエ・バーバリ

早香 ハゲ・チビ・デブ・巨乳。ハゲ・チビ・デブ・巨乳

まや メガネ・メガネ・メガネ・メガネ

なっち 杖・手袋・外国人

早香 ヤ・ク・ザ

なっち 外国人

早香 ヤ・ク・ザ

なっち 外国人

早香 ヤ・ク・ザ

なっち ホスト・ヤクザ・ホスト・ヤクザ

美甫 すみませーん、

まや ちよっと！

なっち 痴漢です！

早香 違います。
 美甫 すみません、
 まや ちよっと！
 なっち 痴漢です！
 早香 おりませぬ。
 なっち 痴漢です！
 早香 違います。おりませぬ。
 なっち 痴漢です。
 美甫 間もなく駅に、間もなく間もなく、間もなく駅に、
 まや 入ります。
 早香 プシユー！

なっち 電車・停車・降車・乗車
 まや 解放・発散・安堵
 早香 深呼吸！

五人、深呼吸。

なっち コツコツコツコツ
 なっち美甫まや早香 コツコツコツ

美甫 郊外
 まや 遊歩道
 なっち 散歩道

早香 うごく歩道。うごかない歩道。うごく歩道。うごく・か・ない・歩道。うごく・か・ない・
 い・歩道。

美甫 コリドー
 まや パサージユ
 なっち 商店街

美甫 コリドー
 まや パサージユ
 なっち 商店街

早香 エスカレーター・エスカレーター・ティーン・ウィーン

なっち 町田市立中央図書館
 まや エントランスホール

三谷 あ！ あ！

美甫 丸天井

なつち 残響音

三谷 あ！ あ！

なつち 町田市立中央図書館

まや 1990年11月吉日開館。

早香 開館以来、106894.95.96人目の来場者、

美甫 の、彼女、

三谷 三谷クニコです。

◆音響:fadeup 場転に引っ掛けてout

7人そろってねえ

木村 やー、でも走れねえな全然。

星野 無理っすね。

高橋 つーかあの頃、市民線とか一日3試合やってましたからね？

シズカ ヘーッ！

木村 も・バカとしかいいようがねえ。

星野 無理っすね。

高橋 でも全然走れてたじゃないすか、木村先輩は。

星野 うんうん

木村 だから毎日動いてんだっつーの。

シズカ ヘー、疲れてないんだ？

木村 いや、もう、限界。

一同、笑う。

星野 そういや今日ラクは？

木村 そうだ、あいつ結局来なかったじゃん？

高橋 いや、ラクはなんかメールで、行けたら行く、と。

木村 出た。

星野 百パー来ねーっすよ、行けたら行くは。

高橋 まだどっかでエロ本立ち読みしてんすよ。

星野 エッソでな。

木村 あったあった。何だっけあの雑誌？

星野 ゴリラ？ とかなんとか。

高橋　ちがいますよ、ジャンボっすよ。

木村　ジャンボ！

星野　それだ。ジャンボ読んでんだまた。

木村　なんかラクが超足速くてさ、サトルと二人でずっと競って無かったっけ？

高橋　すげえ嫌だったんですよ俺も。でも、あいつがめっちゃ負けず嫌いだから譲らなくて、

星野　いや、お前もだろ。

木村　（シズカに）なんか練習の前に毎日30分とか走ってたんだけどさ、こいつがバカみてえに速くて、

シズカ　へー、キーパーなのに？

高橋　まあ、足腰ぐらい鍛えておかねえと、と思って。いや、あの頃は肘も悪へしちゃってたから、もう走るしか無くて。

シズカ　あー、

星野　そっすいやもう大丈夫なんだ、肘？

高橋　はい。もう全然。

木村　でも惜しかったよな、お前らの代の最後、

高橋　あー、夏の総体っすよね？

木村　そっすう、俺らまで応援狩りだされてさ。

高橋　だってあれに勝ちゃ一応、全国だったわけですから。

星野　すげーよな、よく考えてみると。

高橋　ていうか、あれはホント……俺、いまだに夢に見ますからね。

星野　マジでか？

木村　なにになに？

高橋　いやあの、試合終了間際のあの、あそこで俺がパスを通してれば？　絶対延長いけました

からね。で、延長いたら絶対勝ってた試合でしたし。

木村　うーん。ま、でもノブが外した瞬間に俺は終わったって思ったけどね。

星野　思った思った。

高橋　いや、でも後半めっちゃ追い上げましたから、

星野　残り一分。

木村　一点差。

高橋　同点においつけば延長。

木村　向こうは1人退場してたしな。

星野　いかついハゲがシュートしてきて……。

高橋　それを俺が止めて、

木村　バシッ

星野　うおっしやあー！

木村　わああああー！！

声　ディフェンス一本！　プープププー　守って速攻！　プーププププー

木村 まわせまわせまわせ！

高橋 足止めんなよっ！

星野 声出せ！ 声！

高橋 チェックチェック！

木村 45 (ヨンゴー) いいよ！ 45！

高橋 センターいいよ！

星野 ポストいいよ。ポスト。

声 一本！ プッー！ 一本！ プッー！ 一本！ プッー！

木村 バシン！

星野 うおっしゃあああ！

高橋 いかついハゲのシュートが来て、それを止めて、速攻！

木村 サトル！！

と、突然、無音になる。

高橋 なんてあの時、投げられなかったんだろっ……

シズカ プレッシヤーと、

木村 自信の無さ、

星野 恐怖

高橋 肘なんか別にぶっ壊れても良かったのに……。

シズカ プレッシヤーと、

木村 自信の無さ、

星野 恐怖

高橋 なんでなんだろっ……。俺は、絶対にあのロングパスを通せた。

プアアアアアアッー！！

わあああ。

高橋 この間アルバムを見てたらハンドの試合の写真が出てきたんですけど、
シズカ へー。

星野 はいはいはい。

高橋 「走れ走れ、信じて走れ」ていう垂れ幕あったじゃないですか、うちの学校？

木村 ああ、あったかもな、そういうなんかOB会寄贈、みたいな奴だろ？

高橋 そうっすそうっす。なんか超懐かしくて、

星野 ああいうのってなんか、アホみたいの多くないですか？ 常に勝つと書いてっ、

星野 ないっす！

木村 ないっすよ。

小田 絶対見てないでしょあの人。さっきから全然出ないし、じゃあ、じゃあこの後、俺の携帯から電話かかってきたら、多分それ俺じゃなくってあの子なんだよ、そしたらすべいっの携帯に折り返してもらってもいいですかね？

木村 ー、わかったわかった言っとくよ。

小田 すべ、すべにもらえますかね？ って星野さんにも言っとくんだぞ。

木村 ー？ なんで小田チンの携帯持ってっちゃったの、その子？

小田 あ、もしもし？

木村 もしもし？

小田 着信とかもないですよね？ ワンギリみたいな。

木村 いやー、特にはねえけど、

小田 そっすか……。じゃあ、とりあえず連絡ないんだったらいいです。

木村 ー。悪いね。

木村、電話を切る。

わが家

★照明変化：家に戻る。

電話を切ってから少しの間、同時に進行する？

仁村と石橋はPSPのような対戦ゲームをやっている。

仁村 どうだった？

小田 いや、ダメっす。

仁村 まあ、そうだろね。

石橋 ちょっと散歩いっただけなんじゃないですか？

仁村 ねえ。たまには外の空気だって吸いたいだろっし。

石橋 うんうん。

仁村 それかまあ、自分で警察行ったとかって可能性はあんじゃないの？

石橋 えーなにそれ「自首」ってこと？

小田 自首ってそんな……。あの子は犯罪なんか犯してないんですから。

仁村 まあ、そうだけども、

石橋 むしろ小田くんが犯罪者扱いされちゃったりしてね。(ゲームに関して) だーやばい！

仁村 ホラホラホラ、

ゲームに夢中になっている二人。

小田 ていうか、何で仁村さん止めてくれなかったんですか？
仁村 えー？ 知らないよそんなの。

小田 今まで部屋から出たことなかったのに……。
石橋 よっ！ はっ！

仁村 てか、そんなに心配だったら警察に届けねばいいじゃん？
小田 出来るわけないじゃないですかっ！

石橋 えー、なんですか？

小田 いや、なんでも何も無いですけど……。

仁村 あーっ！

石橋 ていていていー！

仁村 だーっ！ また負けた。

石橋 つぶねー。つぶねー。

ゲームがひと段落する。

石橋 (笑) どうこの、はじめてやったのに四連勝という天才ぶり。

仁村 最後、汚ねえよあれ。あーもー。ほんと悔しい。

小田 ねえ、仁村さんは本当になんも聞いてないんですか？ どっかに行きたい、みたいな、なんか匂わせるようなことが。

仁村 だから、聞いてないって。

小田 なんでもいいから。言ってなかったですか？

仁村 わかんないよ、そんな。

石橋 ね、一回、買い出し行かない？ お腹空いちゃった。

仁村 あー、そだね。

石橋 いこいこい。

仁村 携帯。

小田 預かっておきます。

仁村 はあ？

小田 いや、折り返し来るかもしれないんで。すみませんけど。

仁村 (携帯を渡しつつ) ……っーかあたしのプライバシー無さすぎだろ。

石橋 どうせ誰からもかかってこないんだから。

仁村 なんかないっつもの。

仁村が小田に携帯を渡して、石橋と一緒に部屋を出る。

シズカとジュンタとキョウコタン

木村 やあ、なんか悪かったね、一田付きあわせちゃって。

シズカ ううん。別にだって、一人で家にいるよりずっといいよ。
木村 ー、そう？

シズカ なんかいりる考えちゃうし……。
木村 ああ……。え？

シズカ ーん？

木村 それは何？ 俺が浮気してんじゃないかねとか、そういう話？ だよな？
シズカ だってしてんじゃない。

木村 いやいやいや、え？ なにをそんな自信満々に言ってるのこないだから？ は？
シズカ もうやめてそういうのホント。

木村 いやいやいや、だってさ、
シズカ うんうんうん、ああ、ごめんごめん、じゃああたしもはっきり言っけよな。

木村 うん、なに？

シズカ メールをね、見ちゃったんですけど？

木村 メール？ メールって？

シズカ はあ……。え、じゃあ言っけよさ、キョウコタンで誰？

木村 あー、それが……。あー。

シズカ 結構、毎日のようにメール入ってきましたよね？

木村 まあね。

シズカ 今はどうだか知らないですけど、絵文字もじゃんじゃんあって、ホント楽しそうだなにかいってですね。いろいろ食事したり、プレゼントされたりさ、

木村 いやいやいやいや、あの、あの、

シズカ まあメール見ちゃったのはあたしが悪かったけどさ、あんなハートマークいっぱいける人もごーかと思っけよ、

木村 母ですけど、

シズカ は？

木村 いや、は？ じゃなくて、うちの母、お母さん、恭子でしょ？

シズカ ……え？

木村 うん。

シズカ え？ キョウコタンで、え、嘘だよ。だって、え？ ジュンタは何？ 自分の母親を「キョウコタン」で登録するわけ？

木村 あの人が勝手に変えたの、登録名を。

シズカ 嘘でしょ？

木村 ホントだよ「母」とか登録してたらすげえ怒られてさ。

母、舞台上の別の場所に登場して、

義母 母って……。、や、母だけじゃなく、母……。、やめておんなキョーをばばのキョーあんなにない。母って……。、んんんんんめいっ……。「キ・ヨ・ウ・コ・タ・ン」と書いてたからいっ。

木村 うん……。

母、退場。

★照明：変化。

木村 わかった？

シズカ ……ごめん。なさい。

木村 ま、結局、俺のことが信用できないって話でしょ？ 突き詰めたら。

シズカ そうじゃないんだけど、なんかジュンタって掴みどころがないっていうか……。

木村 なに、掴みどころって？

シズカ だからなんか、取っ手みたいな。

木村 取っ手？

シズカ こう、掴んで、お湯を注ぐ、みたいな。

木村 そんな便利なものはなあ……。

シズカ わかってるんだけどね。でも、結婚する前の方がまだしも掴みどころがあったっていうか……、って思っちゃうことがあって、

木村 まあ、そんなもんなんじゃないの、夫婦なんて？

シズカ どういうこと？

木村 だってまあ、長へんきあつてりゃ、そりゃあ思えへん部分は多うたんだけど、逆に何だ、お互いの違いとか、理解し合えない部分とか、そういうのひっめく見えてきちゃうわけだからさ。

シズカ フクザツ……。

木村 でも、それでいいんじゃない？ おはよー、とか、おかえりー、とか声を聞いただけでもさ、疲れてるな、とか、なんかいいことあったのかな、とかそんなことがわかるようになってくるって、そんなに単純なことじゃないよ。うまく説明できないうつなにしても、声を聞けばまあ、全部わかったりもするわけだし。

シズカ そんな時ばかりじゃないけどね。

木村 まあね。

少しの間。

木村 ぐりあえず信じとけってことじゃダメなの？

シズカ うん……。

木村 しかないよ、そんなの。ぐりあえず信じて、ぐりあえず待つしかない。

シズカ うん。

二人、退場。

★照明：変化

星野 ただいまー、って、おほほ、ダメだこれ、まじ立てねーぞ明日。

小田 なんかあの、連絡とかありませんでした？ 三谷さんから、

星野 連絡？ ってなに、どうかしたの？

小田 どうかしたのって……。あれ？ 木村さん何も言ってくれなかったんですか？

星野 うん。って、え、何が？

小田 なんなんだよあの人……。

と、そこに電話がかかってくる。

ここで鳴るのは、最初に三谷が持ってきた電話である。

星野 これ、誰の？

小田 や、三谷さんのです。

星野 出ねーの？

小田、出るのを少しだけ躊躇してから出る。

小田 あ、もしもし？ 三谷さん？ 三谷さんだよ、ヤムジャンの？

間。小田は受話器の向いじつから聞こえる音に耳をすまじっている。

小田 なんか近くに見えるもの言ってくれたら迎えにいっから……。

星野 どうか出かけてんの、あの子？

小田 え、三谷さん、外？ なんか水の音みたいの聞こえんだけ、ヤムジャンの？

声（早香・美甫・里美） 沖繩！

小田 ……沖繩？ 三谷さん、今、沖繩にいるの？ ホントに？ あ……。

小田、受話器を置く。

星野 え、なに、あの子からだったの？

小田 ……多分。

星野 多分てなんだよ。

小田 いや、よく聞いさなくて……。

星野 ふーん、でなに、沖繩にいる？ て話なわけ？

小田 ああ、はい。なんかそんなこと言ってる……。

と、ドアを開けて入ってくる三谷、石橋、仁村。

小田 あ……

星野 おかえり

仁村 うん……。あー、なんか、うちのドアのところに立ってたから……。

石橋 あれ、この人じゃないんですか？ 三谷さん？

何かをいたげな三谷。

同じく何かを言いたそうだが、何も言葉が見つからない小田。
間。

小田 どこ、行ってたの？

三谷 図書館。

仁村 図書館？

無言で三谷を抱きしめる小田。

それを近くで見ている石橋と仁村。

石橋 こんなのと一緒に暮らしてんの嫌だね。

仁村 まあ……。

星野 なお小田、小田、

小田 はい？(何ですか?)

星野 この子が帰ってきたんだったらさ、さっきの電話は、誰から？

少しの間。

★照明：転換明かり。

4 監禁拘束

監禁拘束

脅迫電話

★照明：小田が電話を取ると照明変化。

小田 もしもし？

見城 クミコは？

小田 ……いませんけど。

見城 いないわけないでしょ？ 代わってよ。

小田 いたとしてもあんただけは絶対に話しませんよ。といつか、こないだ電話かけてきたのもあんただろ？ あれ一体なんだったんだよ？

見城 小田さんは、九時五時かな？

小田 はあ？

見城 もうちょっと遅いかな？ 九時六時、で働いてんのかな？

小田 何言ってるんですか。

見城 あんたがいない時にはちゃんと電話に出るからな。

小田 誰が？

見城 誰って（笑）。クミコしかいないでしょ。

小田 ……

見城 あ、もしもし？

小田、電話を切る。

傍らの三谷を見据えて、

小田 この電話に出たことあるの？

三谷 え？

小田 電話に出て、こいつとしゃべったことあんのかって？

三谷、イエスともノーとも反応しない。

電話が鳴る。

小田 ねえ、こいつ（電話の回しっく）、誰？

三谷 知らない。

小田 知らないわけないでしょ。ねえ、こいつ誰なの？ 図書館のは何？ こいつ会ったの？

三谷 (首を振る)

小田 こいつ、誰？

小田、鳴り続けている電話を取る。

小田 なんだよ？

見城 電源切ったらどうだ？ 知ってる？ 携帯するのはさ、その気になれば電源入っているだけで場所特定することも出来ちゃうんだよ？

小田 そんなの僕の勝手でしょう。

見城 あんたが電源切ってくれないから、こんな何べんも何べんもかけちゃうんでしょうが。

小田 だから僕の勝手でしょ、って。

見城 勝手だけだよ。親切じゃないね。こっちは大変だ。

小田 ……。

見城 今日は電波悪いな。やたらノイズが乗るよ。

小田 そうですね、ちょっと。

見城 小田さんはさ、こつやって確認をしているんでしょ？

小田 はい？

見城 電話がかかってくる限りは、俺はまだ遠くに居るんだって。電話以外にクミンコにつながる方法がない状態なんだって、そういう確認をしているわけだよな？

小田 なんで、俺の名前知ってますか。

見城 最初「もしもし小田ですけど？」って出たじゃん。

小田 ……。

見城 小田さんもうセックスはした？ ヤッチャってる？

小田 ……。

見城 いやー、ショックだなあ。俺以外の人間にクミンコが股開いてんのなんか考えるだけでうんざりするよ。もうヤッチャってるんだろ、当然？

小田 ……。

見城 すくなくともオナニーはしてるはずだよ、毎日。な？

小田 はあ？

見城 や、してるんだよ。毎日しとけよって、俺が命令してるんだから。

小田 命令？ って何いってんだあんた。

見城 だからさ、って、小田さんちよつと聞いてくれるかな？ 俺、考えたんだけどね、セックスの最高の形式でののは、もしかしたら「オナニーして」「こつやしてやる」とかなんじやないかって思ったよ。

小田 何言ってたお前。

見城 「アジが気持ちいいの?」などと言いつつ相手の方「アジを探しているから」お前の気持ちいいところはお前が探せ」って命令してやる方がよっぽど親切だろう? そういう。親切じゃないあなたにはわかんないかもしれないけれどもある種の命令するのは優しいかなかなよひよっぽど親切な……

小田 あんたが!

見城 ……? ?

小田 あんたが伝えた命令していいのが、今せめの子の中で生きてるって、今せめ三谷を支配しているって、そういうのをいいたいの?

小田の間。

見城 なにせいでこちは遠くにいるからねえ。実際のことにはわかんないだけじゃ……。

小田 もその子のごじは話をしてよ。そういうおごころをわかんよ。な? 頼むだろ。

見城 あんたの方こそ、そういうおごころをわかんよ。

小田 ……。

見城 ク/IIIは俺と一緒に静かにそういう事らして来たんだよ。あんたこそ、あごじをそういうおごころをわかんよ。あんたは、俺にク/IIIを返さなくちゃいけないはずだ。

小田 あの子は、あなたの持ち物じゃねえぞ。

見城 ぶーん、声のトーンが遠くなったな? ン、小田さん? 恐怖を感じた人間は対象から距離を取る、つてな。わかっているだろあんたも? ク/IIIが俺のものじゃないとしたら小田さんのものでもない。誰かのものになるんだとすれば、俺の方が順番が先だろう?

小田 何の順番だよそんなの。

見城 近々会いに来いから待っているよ。

小田 <……>うひひひ……うひひひ…… 来れるわけなごう? 携帯で場所調べるとか調べてはくひひひ、あなたの技術的におぼろげなかもしれないけど、それは警察とか公安とかそういう組織に限った話だろう? あんたみたいな権力の無い人間が、そういう調べてくれるって調べられるものじゃないよ。あなたとうやうして俺をゆかさぶってボロボロ出すのを待ってんだろ? 出さないよボロボロなごう、くひひひひで待たうして俺はねー。

小田、電話を切る。

拘束

小田、電話を捨てる。

三谷、それを捨てる。

電話が鳴る。

小田、電話を切る。

小田、三谷の周りに柵を作る。

電話が鳴る。

三谷、そこから出ようとする。

小田、受話器を上げてすぐに切る。

小田、三谷に足かせをする。

電話がなる。

三谷、這いずってどこかへ行くようにする。

小田、受話器を上げてすぐに切る。

小田、三谷に手錠をかける。

電話がなる。

三谷、電話と小田を見ている。

小田、三谷に目隠しをする。

電話がなる。

三谷、動かない。

小田、三谷にヘッドフォンをつけて音楽をかける。

電話がなる。

小田、電話を切って、受話器を拳げたままの状態にする。

◆音響…どこまで音楽がかかっているか、ここで消える。

★照明…段々と暗くなっている。あるいは、どこかの工程で小田が照明を落とす。

露見

仁村登場。

無言。

小田 あ……

仁村 ……

仁村、三谷の目隠しを取ったり、足かせを取ったり、小田が施した拘束をほごいてやる。

小田 あ、居たんですね。

仁村 ……

小田 あれ、バイトは？

仁村 今日早番だったから……。

小田 あ、そうですか。あー、そうですね。

仁村 ……

小田 いや、あの、

仁村 ……小田くん、仕事は？

小田 はい。すみません。

仁村 ……なに？

小田 あ、いや、あの、明日、行ってきます。

仁村 明日から、ね。

小田 はい。ずっと。明日からはずっと、はい。あ、あの、なんか心配で。

仁村 (頷く)

小田 おまえ、が、心配だぞ、みたいだね。はい。

間。

小田 明日はちゃんと、行ってきますから……。

仁村 うん……。

小田 あの、星野さんには、

仁村 うん？

小田 黙っててもらえませんか？

仁村 ……やだ。

小田、少しの間があつてから、仁村との距離を急激に詰める。

仁村 仁村、

小田、止まる。

仁村 仁村、ついでに、言わなさいよ。

小田 (頷く)

仁村 顔、洗ってきましたら？

小田、はける。

社会貢献

不可解

星野、登場。

星野と仁村が廊下にいる。

星野 そんな心配すんなって。

仁村 いや、絶対出てってもらった方がいいよ。あの子。

星野 俺もそうは思っけどさ、

仁村 小田クソのためにもだよ。

星野 わかっているって、俺からも今度、言っとくから、

仁村 今度今度っていついついしも何もいつてくれないじゃん。

星野 ちゃんと言っよ。

仁村 それで今までズルズル来ちゃっただわけでしょ？

星野 わかったよ言っよ。今、言っよ。

仁村 うん……。

星野、仁村、小田の部屋に行く。

星野 三谷さん、ちょっと入っていい？

三谷 ……。

星野 入るよ？

小田の部屋に入る、星野と仁村。

星野、仁村、窓際に座っている三谷と対峙する。

少しの間。

星野 あーの、俺はよくわかんないんだけど、わ。

三谷 ……。

星野 三谷さんが、昔、本当に監禁されていたのか、それとも、なんか冗談？ ていつともないのかもしれないけど、さういつの言ってるのかわかんないけど、あ、あ、あ、今、君が逃げたい、てことだったたら全然、俺らは手伝うこととはできるよ？

三谷 ……。

仁村 うん。何？

三谷 逃げません。

仁村 うん。だから、そこを教えるって欲しいんだけど、どうして？

三谷 小田さんと約束しているし、

星野 ……し、なに？

三谷 ……。

仁村 なに小田のことが好きなの？ てこと？

三谷 個人的には……。

星野 個人的じゃない場合ってのがよくわかんないんだけど、

仁村 でもとりあえず好きなんだよね？

三谷 ……。

仁村 え、だったらおかしいじゃん全然？ じゃなおかしいから。いつかあなたもあなたも黙

ってあいつのことされてるわけ？ 嫌なら嫌って言えばいいじゃん？ 逃げたいなら逃げたい

で手伝ってあげるっていつてんでしょ？

星野 イフフハなよそんな。

仁村 だってこんなの続けてたら、実質うちらも共犯みたいになっちゃうんじゃないの？

星野 そんなこと気にしてゐるわけ？

仁村 気にするでしょ？ なんでうちらが小田クンの勝手に巻き込まれちゃうといけないの？

星野 そりゃ俺だってそいつ思っけじゃ、

仁村 (三谷に) 何なの？ なんで隠さなくちゃいけないの？

星野 だから小田クンと約束してるからでしょ。

仁村 (三谷に) ホントに？ なんかあたしにはあんたが小田くんを操ってるみたいに見えるん

だけど、どうなの？

崩落

小田、登場。

星野、小田が部屋に戻ってきたところへ

星野 あ……。

小田 ……。

星野 おう、おかえり。

仁村 って、え？ 仕事行ったんじゃないの？

小田 いや、お風呂上がってきたんだけど、いつか、あんたら何やってんの？ 人の部屋勝手

に入っ、は？

仁村 別に何も。

小田 なに、なんか話してたの？

仁村 ちよつとね。

小田 なになに？ 仁村さんなに？

仁村 別に、いろいろだよ。

小田 いりいろ？

星野 あのさ小田、

小田 はい。なんすか？

星野 俺、隠しているの嫌だから言っよ？ 悪いけど。

小田 え、言っつて何を？

星野 何って全部だよだから。

小田 警察にもって意味ですよ、それ？

星野 え、もし、そうだったらなんなの？

小田 困ります。

星野 じゃ困れよ。つうか困るよつなごすんよ。

小田 いや、大丈夫ですよ。彼女が出たいって言えはいつでも自由にさせますし、そう伝えてますし。ね？

三谷 (頷い)

小田 というわけでこの状態は監禁にはあたらない。可能的な意味でも、現実的な意味でも自由を束縛していないからです。

仁村 自由……？

星野 わかんねえけどさ、そういう法律のことは。

小田 だったら口出さないでくださいよ。わかんないんでしょ？ ねえ？

仁村 星野の家でもあんだじゃ。

小田 だから罪に問われることはないって言ってんじやないですか？ は？ 問題ないっていつてんだからもう話、終わりでいいじゃないですか？

星野 どつすんだよ？ 会社だつてずつといつてねえみただい、やばいじゃねえの？

小田 しばらくは保険で食ってきますよ。貯金もあるし。

仁村 て、え、なに辞めちゃったの？

小田 ……まあ。

仁村 保険なんか出んの？ サボってやめただけでしょ？

小田 そりゃ正社員ですから。

仁村 あっしっ。

小田 あっしっよ。いい機会だから言っつてくけや、君ら、じゃからはなぬえへ見ないよつていつてゐる？ 三谷はなぬえ。

星野 なに？

仁村 田を合わせなつていつて。

小田 うん。うっ、っ、や、そなのはおもひろんなタメなただけ、田を合わせよつていつてゐるの。話じゃなく、お互いの姿を見ないで欲っつていつてゐるの。

星野 そわは……。

仁村 え、何いつてんの？

小田 嫌ですか？

仁村 あ、お、じいめたしらの家でもあんだけよ？

小田 わかっていますよ。だから多数決したじゃないですか。

仁村 そういう問題じゃない、よね。

小田 え、じゃあ、わかりましたよ。わかりました。それじゃ仁村さんの引越っ代ぐらひは用意しますよ。

仁村 え？ 出て行って言ってるの？

小田 バス・トイレ別がいいんですけどよね？ 駅はどの辺がいいんですか？

仁村 ちょっとなに、どっしちやったの小田くん。ちよつとさ、冷静に考えよー回。

小田 うわー、なんすか？ 出た出た。心配するフリ。やめてくださいよそんな約束も守んない人が。

仁村 別に心配なんかしてねーよ。

小田 あー、そりゃそうですよね。ま、仁村さんが何を心配しているかっことは、僕も一応わかっているつもりですけど、

仁村 何が？

小田 え、あれでしょ？ なんていうか仁村さんと星野さんの共同生活もまあ、これで終わることにしちゃったら……、ね？ なんだったらこれを機に、星野さんと二人暮らしするっていう提案をしてみたらいいんじゃないですか？ 便利ですよ僕がいなかったら洗濯もわざわざ分けてやる必要なくなるわけですし、

仁村 言ってることがわかんないんだけど

小田 仁村さんだって僕と一緒になんて苦痛以外の何ものでもないでしょう？

仁村 あんたがそう思ってるだけでしょ？

小田 僕じゃないですよ。仁村さんですよ。

星野 思っていないだろ別に。

小田 だって、ええ？ 態度がそう言ってるじゃないですか。

仁村 別にそんなん思ってたらソッコー出て行くしよ。

小田 じゃあソッコー出てってくださいよー……なあんでいったらりしてね(笑)。僕にとっては、仁村さんと星野さんの間で、邪魔者だか緩衝材だかわかんないですけどそんなポジションにいるのは全然、楽しいことでもなかったですからね。

間。

小田 なんすか？

仁村 別に。

仁村、小田と距離を取って座る。

友達について

星野 あのさ、友達として、ね……。

小田 はあ……、は？

星野 いや、友達として教えてくれっていつてんだよ俺は。や、別にいいよ？ おまえらの恋愛っていつか、まあ……、恋愛か。そういうのに干渉するつもりはないし、ただ、わかんねえんだよお前らのやっっていることは。何だよ？ どうしたいの？

小田 俺はなんか……、なんていうか……、あ、ごめんさい、とりあえずその、ありがとうって感じです。

星野 え・え？（ありがとうって？）

小田 まあ、そんな風にいつてくれるのは星野さんくらいしかいないから。まあ、友達っぽい人とか俺はすごい少ないタイプだから。

星野 うん……。

小田 ああ、なんだろ。俺はあの、多分、あれすよ。なんか、わりとこの世の中全体が気に入っている、っていうか、あの、好きなんだと思います。多分。

星野 なんだそれ。

小田 でもなんつうか、あんまこの世界を体験したいとかそういうのはなんか、いいんですよ。人と会うのとかもあんまり好きじゃないし、それはなんか、別に自分が人とうまくやれないからとか、そういうのはやっぱりじゃないと思うんですよ。や、そりゃ星野さんの言いたいことはわかりますけど、俺は確かに、人とそんなにうまくやれてないすよ全く。星野さんみたいな人から言わせたら、全然うまくやれてないと思うし、

星野 いつてねえいつてねえ。

小田 でも俺は俺で、結構面白いなあ、って思っているんですよ、ほんとに。

星野 それはそうなんじゃない？ 別にいいよ。だからそういうことじゃなく、

小田 いや、ちよっちよっつ聞いてほしいんですよ。俺、あの、エロゲーやっていて気付いたんですけど、

星野 エロゲー？

小田 はい。エロゲーやっていて気付いたんですけど、俺、全然アクションとかRPGとか好きじゃないって、ノベル系みたいな方が全然好きだし。なんかクリックだけしてりゃ進んでいへみたいなの？ そういう感じのゲームのが好きなんです。これはだって、しょうがないじゃないじゃないんですか？ いくらアクションが面白いよ、って人から言われても別に好きじゃないんですよ、疲れるだけで。っていうかぶっちゃけ言ったらハンドだって、ホントは最初の半分くらいでも飽きたんですよ。俺。

星野 ええ？ なに？ どういうこと？

小田 いや飽きてたんです。飽きてたんですけど、なんか……、なんでもかんでもすべへやめちゃダメだと思ったんですよ。だから努力して続けたし……まあ高校では途中でやめちゃいましたけど……でも中学ん時は最後まで続けたし、だから、俺はあそこで気付いたんですけど、だんだんハンドが好きになってくると、どんどん自分ではやりたくなくなっと思ってきちゃって、俺は、俺が参加していないゲームを見てる方が好きなんです。全然。

星野 んー、ま、言っていることはわかんなくもないけど……。

小田 だから世の中もそういうんです。やあ、なんていうんですか、よ、へ、ホントはなんとも興味ないって政治とかに文句言っている奴とかっているじゃないですか？ 俺は全然あんなのは、

何だ？ とか思っちゃって。俺は全然いいんですよ、そういうところからいっていいのは関わらなへい。働いて、税金納めて、それでいいじゃないですか？ まあ、選挙には行ったことないですけど、最低限、それだっただけだと思っただけです。悪いんですかね？

星野　なんだかよくわかんねえ話になってきたな。

小田　いや、なっていないですよ。なっていないじゃないですか？　なんかいろいろ話しちゃってまですけど、えーとだから、全然聞いてないな、って話ですよだから。

星野　何が？

小田　その、物事に参加するっていうことに全然、向いてなくて俺は。

星野　そんな奴いねーだろ。

小田　あー違いますよ？　これ別に拗ねていっているわけじゃないですからね。あ、なまじうか自分が試合に出ちゃうと、試合全体が見えなくなるっていうかそういうのあるじゃないですか？

星野　か？

星野　だからってそういうへんな形で関わんなよ社会人、

小田　はい？

星野　いろいろいってっけぞ、それで監禁する理由にはなってるねえじゃん全然さあ、

小田　だから違いますって、ええ？　こんなにわかりやすくていってるんだから、わかってくださいよそれは。この状況で監禁罪は成立してないって何度も言ってるじゃないですか。

星野　あーあーあー、ごめんね、全然わかんねえわそれは。

小田　だから星野さんは試合に出たい人なんだから出ればいいじゃないですか？　俺はそれを応援しますよ。なんだったら試合の様子を分析とかしますよ。ちゃんと観客席にいますから俺は。そこ、観客席にいたい人なんです。俺は多分。で、その時に、その、俺と一緒に隣りに座って、試合を見ている友達欲しかったんだと思いますよ。彼女はだから、そういう部分ではほんとに僕は共感できたなっていう部分が、あります、

星野　とりあえずそれ犯罪だからね？　わかってる？

小田　だからあんたこそ何度言わせればわかるんだよ……。

星野　犯罪だよ。犯罪。

小田　つうか犯罪犯罪って犯罪がそんなに悪いことかよー

星野　……あんま斬新なこと言っただけを困らせんなよ。

仁村、笑う。

小田　すみません……。

星野　しっかりしてねえよ。

小田　してますよしっかり。すげえしっかりしてます俺は。ていうか、いってしまえばいい、俺、全然、星野さんより金稼いでますからね。

星野　それ今、関係あんの(笑)？

小田 あるじゃないですか。資本主義のルールン中では金稼いだ奴のほうが偉いに決まってるんですよ？ ま、俺はだからって資本主義のルールにのっとって自分の生き方まで決めるつもりはないって言うんですけど、一応、表向きのルールにはしたがって、最低限、ちゃんとやっていますから。

星野 どうすんだよ、この人を？ この人の人生のさ、お前そんなこといったって、責任をどう取るんだよ？

小田 取ってるじゃないですか責任？ 警察に任せるのこそ無責任ですよ。僕は三谷さんに守ってくれって頼まれたから、

星野 この人の親戚とか、そういう人が心配して、今でもこの人の帰りを待ってるかもしれないわけだろ？ 本人が何をいったとしたってさ、うーん、ちょっとキツイ言い方かもしれないけど、この人は病気なんだよ、そういう、なんか、お前と出会う前の監禁してた奴が悪いのかもしれないけど、この人は病気になっちゃってるんだよ。だから帰りたくないなんて今は言ってるかもしれないけど、ていつか本当に監禁があったのかどうかも知らないけど、

小田 嘘なんかついてどうすんですか。

星野 大丈夫だって。ちゃんと返せばさ。

小田 は？

星野 この子の親戚の人とかだあってそのうち返してくねてありがどうってことにもなるだろうし、お前のごとがそれでも好きだったら恋愛の続きでもなんでもやったらいいじゃねえかよ。だけれん時にもしも、心変わりしてそれと別れるってことになっちゃったら、それはお前が我慢するしかないだろう？

小田 星野さん、自分のストーリーで人の人生決めすぎですよ。もう星野物語ですよそれは。

星野 俺が言いたいこともわかってくねえよ。つか、わかるだろう？

小田 わからないですよ。こいつか、わかってくねないのは星野さんじゃないっすか？ 話を全然聞かないで星野物語で全部進めちゃうし、

星野 聞いているじゃん結構？ え・聞いているよな？

小田 えー？

星野 むしろこのせいで一番まじめに聞いてあげてると思うんだけど、お前の話。

小田 だったら聞いてくねなくて結構ですよ。全然、俺そんなこと望んでないっすよ、

星野 へーそー？

小田 いや望んではいろのかなア……。まあ、いいや。じゃあ、そこに關してはありがどういじりましたですよ。俺のお話をこんな聞いてくねるのは星野さんだけっすよ。あ、これは実際はとくとすね。ありがどういじりませう。「ん？」って話じゃありませんか。「ん？」って。そんなんして星野さんが重荷に感じて、こいつやって聞いてやってみたくていつんだったら俺はもう全然こいつのはいじりませう、

星野 もういいや。いいよせう。

小田 何がいいんですか。そんな全然良くなさそうな顔して、

星野 お前がなんと言おうが、俺は言うからな。全然言うからな警察じ。

小田 なんなんだよ。ほんと星野さん……。今、話した意味ないじゃないっすか全然。

星野 俺がいついそよ、それは。

三谷 あのっ！

三谷が急に口を挟んだことで、星野、小田ともに一瞬沈黙する。

星野 はい？

三谷 すみませんなんか。

星野 ああ、まあ、いいですよ別に。

三谷 あ、いや、あの、私が悪いんで、

星野 わかってますよ。って、あ？ おめえバカか？ 「めん悪いけど、あんたが悪いってこと」って、わらわわらわらから俺も。あんたが来るまでは全然ぶっつーに仲良くやってましたから俺じー！

三谷 違うんです、そうじゃなくて

小田 言わなくていいよ！ 違う、やめるやめる、

三谷 あたしが、あの、人を殺したから！

少しの間。

星野 人を……？

小田 だからもう、なんなんだよ……。言わなくていいよ、そんなじよ。

星野 どういう意味ですか（三谷に）？ 殺したって、誰を？

三谷 あの、あたしが、あたしを監禁してた人を殺し、っていうか、殺しちゃって、それで、

小田 という嘘だからね？ ほんと全然、殺しとかあるわけないし。（ここから三谷に向き直って）いいよ。なんだよ。しゃべらないでいいよそういうことは。（また星野に「めん、これに關してはちょっと記憶が混乱しているだけですから。マジに取らないくださいよ？」 え、本氣にっつないですよね？

星野 え、まあ、え？

小田 （三谷に）違う、それを君がいつてもしょうがないじゃんて。

仁村 なに、本当なの？

小田 やめましよう仁村さんも。あのね、これが本当かどうかっていつのを突き詰めても誰も得しないですよ？ 誰も得しない。仮にですよ、仮に、お一人が殺人の事実を知っていてそれを黙っていたら、それはちゃんと犯罪が成立しゃいますからね。刑法第103条？ や、もちろん、そういうった事実は現実にはないですよ？ 全然ないですけど、だから彼女はこの件に關しては、本當のことっていうよりは、被害妄想でしゃべってる部分が強くて、

三谷 ちがうもん

小田 うるさいな。ちょっと黙っててよ。

三谷 だってちがうもん。

小田 もんっていうな！ 語尾が「もん」の女にロクなのはいいないぞー！

仁村 そろそろどう……？

星野 誰も笑える雰囲気じゃないときにボケなくても……。

小田 とにかく、そこはつきりさせちゃうと僕も星野さんも仁村さんも全然、法的には損しますから。しつこお前がそつろつろ話すや迷惑がかかるとつってんだよ！ なんでも入ら入らしゃべってないやねえっ！

天涯孤独

お味噌汁

小田と三谷、二人、離れた場所で横になって寝ている。

小田 さっきはごめん。

三谷 ……うん。

小田 巻き込みたくなかったんだ、星野さん。

間。

小田 ねえ、クミンコさん。そろそろこの家を出ようか。

三谷 ……。

小田 僕のばあちゃん家の近くに家を借りてさ、2人で住もうよ。

三谷 北海道？

小田 いいとこだよ。とても。

三谷 寒そう。

小田 まあね。とても温かくはないよ(笑) でも東京だって十分寒いし。部屋に入って暖房入れ

ちゃえばこのこと大して変わんないよ。

三谷 家族にはなんていうの？

小田 え、別に。交際している人と一緒に住みます、みたいな。

三谷 ……。

小田 ああ、何か勝手に話を進めすぎとは思っただけど、その、一応、そういう風に言った方が理解が早いと思うよ、って話で。

三谷 あたしの家族の話になっちゃったら？

小田 んー、何も言わなくていいんじゃない？ 天涯孤独ってことじゃあな。

三谷 テンガイコドク？

小田 あー、なんていうか、家族とか親戚とかが全くないっていうか、そういう人のことを天涯孤独っていうんだよ。

三谷 ふーん……。どういう字？

小田 え？ 漢字？ だから、天と地とかの「天」に、あと、生涯、一生涯とかの「涯」？

三谷 ……なんか寂しいね。

小田 でも、これからは三谷さんは天涯孤独じゃなくなるよ。

三谷 ……？

小田 僕がいるから……。とかいってね。うわー。なんか俺。うん（照れ笑い）。

三谷 ねえ小田くん、

小田 ん？

三谷 さっき話してた、あの、小田くんが観客席にいらしたって、

小田 ああ、うん。言ったね。

三谷 あたし時々思っただけだね、

小田 うんうん。なに？

三谷 あたしがね、すっごく静かにしているつもりでも、やっぱり息をして、物を食べて、それ
でなんか小田くんとお話までして喜んでいるわけだからさ、なんか、これで十分世の中に参加
しちゃっているんじゃないかって思う時があって、

小田 うん

三谷 あたしはずうっと静かに喜んできたから、お味噌汁でいったらね、

小田 お味噌汁？

三谷 そう、たとえば、お味噌汁でいったらね、なんか全部、味噌が沈んでて、そんで上の方の
液体がすっごくきれいになっているような状態だと思うの。

小田 うん……

三谷 どうにかしてそのお味噌汁を飲みたいよ、ってあたしは思っただけど、だけでもし自分が
お椀を傾けたら、なんか味噌がブワッってなって全部がかき回されちゃって、ぐちゃぐちゃにな
っちゃって、そしたらそれはなんだかすごく嫌なことだなあって、そう、思うの。

小田 いいんじゃない？

三谷 ……

小田 それは別に、怖がること無いじゃん何も。それはね、全然心配しないでいいよってこと
とを、僕は、言っておきたい。

三谷 ……

小田 だってそうしないと味噌汁を飲むことは出来ないんだ！ 誰も！ 飲まないよりは飲
んだほうが喜ぶよ。お味噌汁を作った人をはじめとして、その、味噌を作っている人、その材料
である大豆を製造し、それを管理している人！ つまり農協の人！ などなど、みんな、その方
が幸せになると思う。あ、あと僕は、お味噌汁を飲んでいる三谷さんを見て、喜ぶと思う。

三谷 ……

小田 いや、そうじゃないかなと思ったって話で。後半なんか迷子になったけど、うん。

三谷 はは。

小田 はははは。

小田、三谷、見城、皆で笑っている。

5 監禁放置

監禁放置

監禁生活

小田は仁村と星野の語りが始まりました。すべし冒頭に出てきた黒板に文字を書きはじめ。

星野　三谷クミコが本当のところ何を考えていたのかは、よくわかりません。

仁村　ただわかってしていることは、こんなやりとりをした翌日に、三谷クミコは家を出て、そうして帰ってこなかった、ってことだけです。

星野　行方不明になる前、最後に三谷クミコを見たのは仁村ヒトミでした。ヒトミと石橋さんはその日の明け方、一階から降りて来る三谷クミコとすれ違ったんだそうです。三谷クミコは玄関に下りると、わが家にやって来た時に履いていた、汚れたスリッパをもういっぺん履いて、ドアを、開けました。

三谷　スチャ

キ――――

間。

仁村　もちろん小田くんは冷静さを失って、あたしが追い出したんじゃないのか、なんていって大騒ぎをしたんですが、取り立てて何の証拠があるわけでもなく、

星野　実際にどうだったのかは、よくわかりません。

仁村　家を出た時、三谷クミコは小田くんの携帯電話を持っていってしまいました。

星野　かわりに自分の持ってきた旧式の携帯電話を、わが家に置きざりにして。

仁村　小田くんはその電話を使って毎日電話をかけました。

星野　自分自身の、携帯電話に向けて。

◆音響：電話が鳴る。

見城、登場して電話に出る。

小田　もしもし？

見城　あー、もしもし？

小田　誰だあんた？

見城　あ、いや、自分、小田と言います。

小田　名前はいいよ。クミコは？ 居るんだろ？

見城　あ、はい、クミコクミコさん？

間。

見城 あ、じゃあ、ちょっと待ってくださいな、今、代わりますよ、
小田 早くごらよ。

間。

見城 あの、出たくなごうなごうですよ、

小田 ぶねげなよ。出たくなごうねえだろ。

見城 いやいや、あとまじぶねげけし思えなごうな状況じゃなごうごうのは結構自分なりに感じていてるんですよ、

小田 居るのは居るんだよな？

見城 ヘルニアきついんだよな？

小田 言ってるよ。居る……、おまえ、ぶねげてんな？

見城 いやいや、

小田 なんで急にヘルニアの話出てくんだ。ひとつも言ってるえだろ。

見城 すみません。ちょっとなんかそつ聞いちゃって、

小田 こっちはクワ/ミロの身になんかあったら、ためえー人へらしい簡単に殺す覚悟は出来てるからいな。

見城 いやーいやー、や、あの、あー、電波悪くないっすか？

小田 ものすいバックリアに聞いしてるよ。

見城 やー、電波悪い気がするな。良く聞いえない。かもしれない。

小田 いいから代われよ。お前どこにいらんだろ？

見城 だから言ってるんだろ、

小田 あ？

見城 沖縄だよ。

小田、電話を切る。

守るべき人・続

小田、黒板にカツカツと文字を書きはじめ。

小田 ついばい更新が止まってるごまごました。すみませと。いじ最近はいじも沢山の事があるし考えをまじぶねげけしだろな。

星野 いじごいなSNSのスペースに入らねえごう『三谷クワ/ミロ』の物語を書いごうだのはいじごうなトランスローだ。小田はキアトのミ田はキアトのミ田はキアトのミ田はキアトのため、

二人 監禁生活。

星野 が、始まったのは、それからのことです。

仁村 かつて3人が共同生活をしたその家に小田くんが一人で閉じこもるようになった、ということ。私が小田くんについて知っているのはそこまでです。

星野 仁村に続いて俺があの家を出て行って、完全に小田が一人暮らしをするようになってからもしばらくは、小田の様子をインターネットで知ることが出来ました。だけど、日々更新される小田ユキヒトによる「愛の記録」も、ある日を境に読む事が出来なくなりました。あいつのペーシは、俺に対しても非公開になってしまったんです。

3人 そうして3人は、

小田 別々の玄関を探して靴を履く。

星野、仁村、退場。

小田、一人きりで取り残される。

小田 一時期、僕は、三谷さんはいじこに行っていましたか？とこいつを毎日考えていました。そしてたまに、本堂に三谷さんはいただらうか？とこいつ風に書きたまはりました。ただ、今は違います。三谷さんはいなくなっとなんかいない。三谷さんはいなくなっとなんかいない。三谷さんはいなくなっとなんかいない。だから僕は、ただ、ただ、僕の感覚器官は鋭敏であわ、と願っています。

小田、少し移動して。

小田 音をよく聞きたい。もっと。三谷さんの歩いた階段に、何かを。いっぺんきりですが、彼女とドライブに行ったことがあります。それは深夜で、たどり着いたのはブルフンド。たどり着いたのはゲレンデ。たどり着いたのは山々。たどり着いたのは海。僕はチリチリ後ろを振り返りながら、ゆづべ観たサザエさんの話をしたりして、三谷さんには、窓の向いごのどんな音が聞こえているんだらう？

小田、ドアに耳を当てて音を聞いている姿勢になる。

ドアをあける小田。

暗闇の中、部屋の外に出ている小田。

星野が小田の手を握る。

小田 星野さん……。

星野が引っ張り上げおろして小田を部屋から出すような動き。

声
風。

一斉になだれ込んでくる外の空気。

窓の向こうで、

駅前のパチンコ台のピコピコポコポコ。

店内アナウンスのかなり声。

窓の向こうで、

誰かが誰かとしゃべっている。

通り過ぎた電車が走行音を引きのばす。

中央・総武線、吉祥寺方面行き、ドア、閉まりまーす。

窓の向こうで、

走り出すエンジン音。

トヨタ、プリウス、ニッサン、セドリック、蕎麦屋のホンダ、スーパーカブ、

スタンドを蹴って、蕎麦屋さんがそれにまたがって、キーを挿す、

窓の向こうで、

隣のビルの室外機。ハードディスクの回転音。冷却装置。

星野

誰かと、誰かがしゃべっている。

足音、足音、足音。

女子

コッコッコッコ

窓の向こうで、

散歩するおばちゃんと、付添の子供。

また明日ねー！ また明日ー！

犬がリードを引っ張って、

窓の向こうで、ルイのお腹の音がする。

終劇